



2022年度第3四半期決算の概要

(2022年4月1日～2022年12月31日)

ご説明資料

2023年2月1日



 山陽特殊製鋼株式会社



<https://www.sanyo-steel.co.jp/>

目次

1. 2022FY3Q決算の概況

損益の概要

事業環境

業績推移(四半期)

経常利益の変化要因(2021FY 4-12月期→2022FY 4-12月期、2022FY2Q→2022FY3Q)

セグメント別損益

貸借対照表

2. 業績予想等

2022FY業績予想

経常利益の変化要因(2022FY下期前回予想→2022FY下期今回予想、2022FY3Q→2022FY4Q予想、
2022FY上期→2022FY下期予想、2021FY→2022FY予想)

Ovakoの状況、SSMIの状況

2022FY配当予想、業績推移(年度)

3. トピックス

4. 2050年カーボンニュートラル(CN)実現に向けた取り組み

5. 参考資料

主要市場動向

設備投資・減価償却費の推移、D/Eの推移

損益の詳細等

1. 2022FY3Q決算の概況

損益の概要 (対2021FY4-12月期)

1. 2022FY4-12月期業績概要

連結経常利益207億円(前年同期比+62億円)

- ・原燃料価格上昇の影響があったものの、販売価格の上昇・構成の高度化によるマージンの改善、一過性影響を含むOvakoの収益改善により前年同期比増益

(2021FY4-12月期のOvakoおよびのれん償却費は、決算期変更により12カ月間 (2021/1~12月)の数値を記載)

(参考) 2022FY4-12月期の売上数量・・・Ovakoは2022/4~12、SSMIは2022/1~9Q

	2022FY4-12月期(A)		2021FY4-12月期(B)		増減 (A)-(B)	
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上数量(千t)	1,210	134.5 /月	1,542	152.1 /月	-331	-17.6 /月
内、当社単独	681	75.7 /月	763	84.8 /月	-82	-9.1 /月
内、Ovako	451	50.1 /月	691	57.6 /月	-240	-7.5 /月
内、SSMI	78	8.7 /月	88	9.7 /月	-9	-1.1 /月

2. 損益計算書 (対2021FY4-12月期)

(単位:億円、%)

	2022FY4-12月期(A)		2021FY4-12月期(B)		対前年同期 (A)-(B)	
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	2,944	100.0	2,693	100.0	+251	+9.3
営業利益	204	6.9	144	5.4	+60	+41.8
経常利益	207	ROS 7.0	145	ROS 5.4	+62	+42.3
内、当社単独	95	6.5	75	6.1	+20	+26.4
内、Ovako	139	11.0	86	6.7	+53	+61.2
内、SSMI(注1)	▲4	-	3	2.7	-7	-
内、のれん償却費	▲22	-	▲27	-	+5	-
税後利益(注2)	148	5.0	102	3.8	+46	+45.3
のれん償却費を除く税後利益	169	5.8	129	4.8	+41	+31.8

(注1) SSMIは、2022年6月にMSSSより社名変更 (注2) 親会社株主に帰属する当期純利益

事業環境

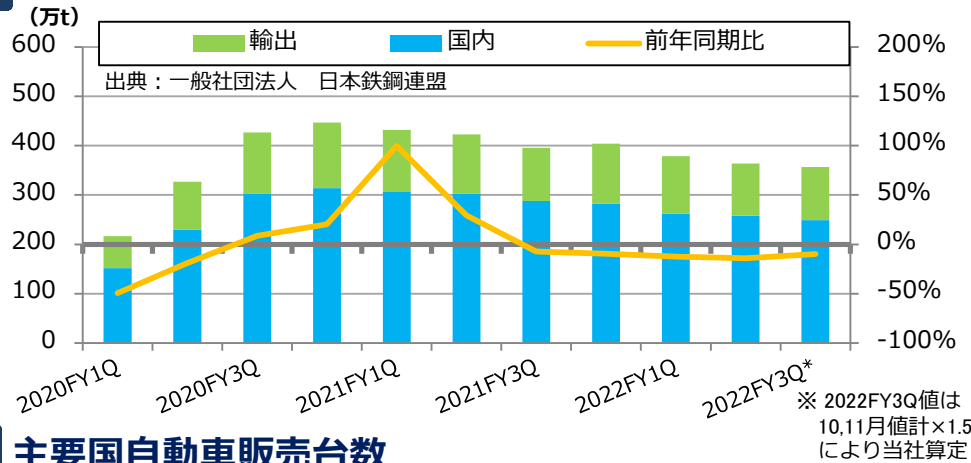
需要動向

半導体不足などによる自動車減産長期化に加えサプライチェーンの在庫調整の影響が継続、建設・産業機械向けも調整局面。インフレの世界経済への影響が懸念。

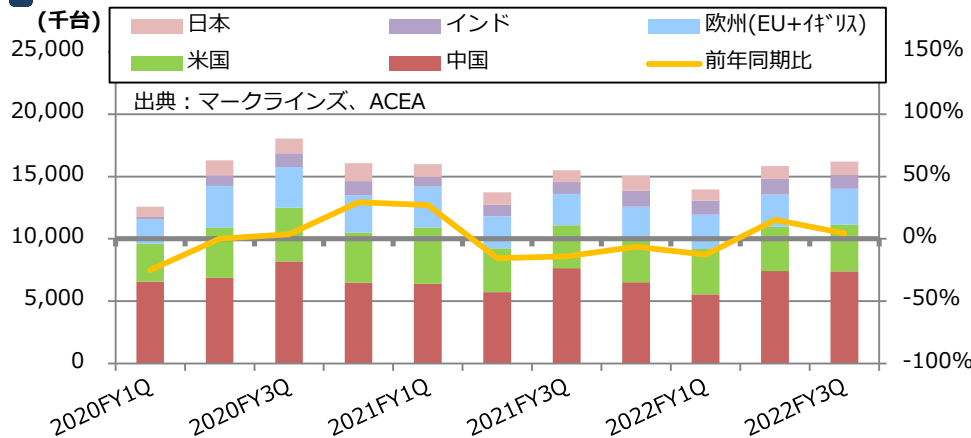
原燃料価格

円安の進行は一段落したものの、原料価格は依然として高位な水準。エネルギーコストの上昇が継続。電力価格は更に上昇の見込み。

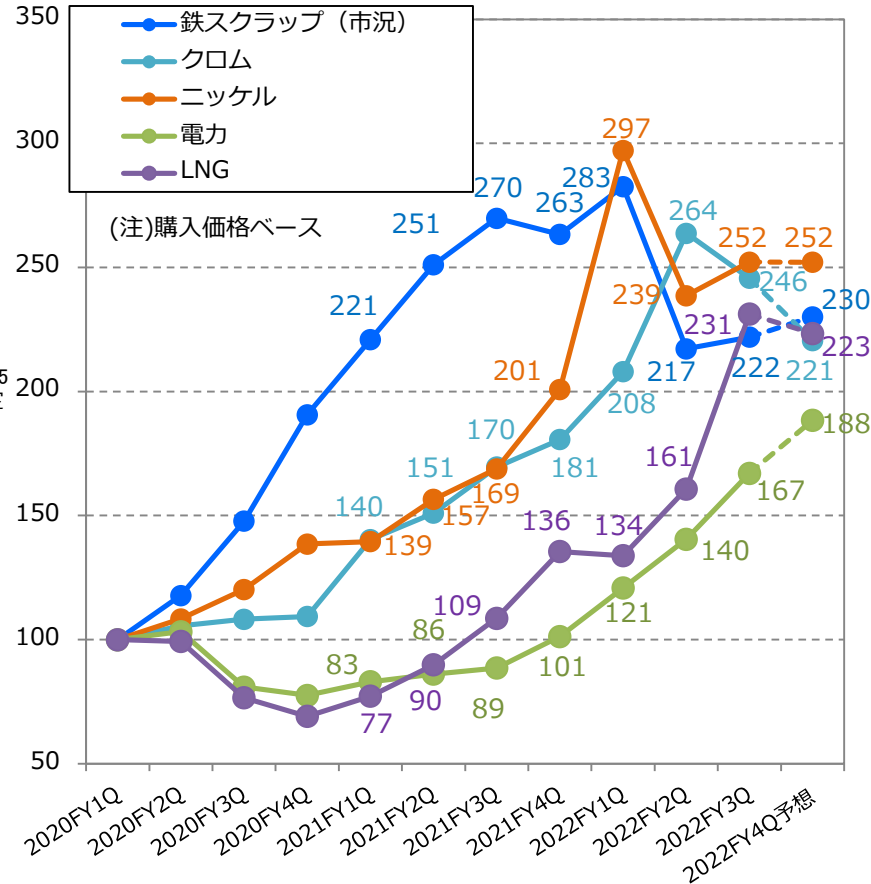
特殊鋼受注数量



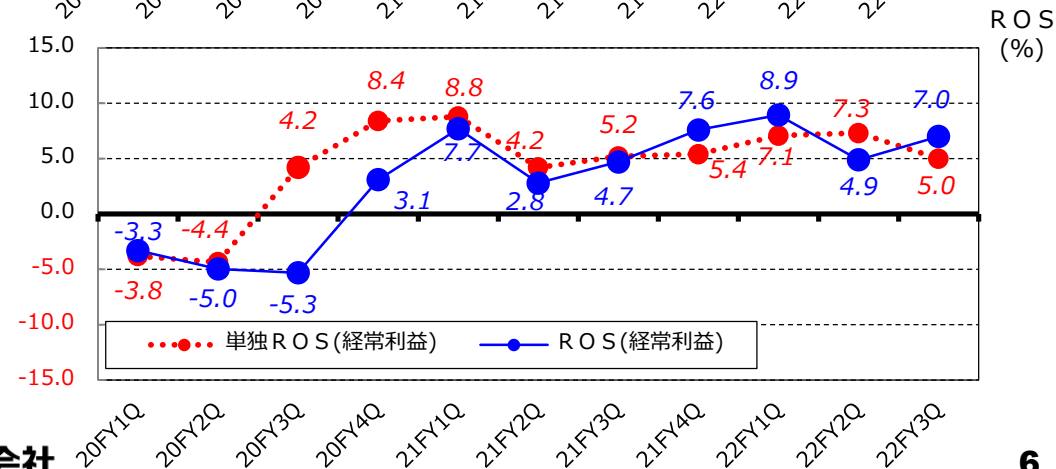
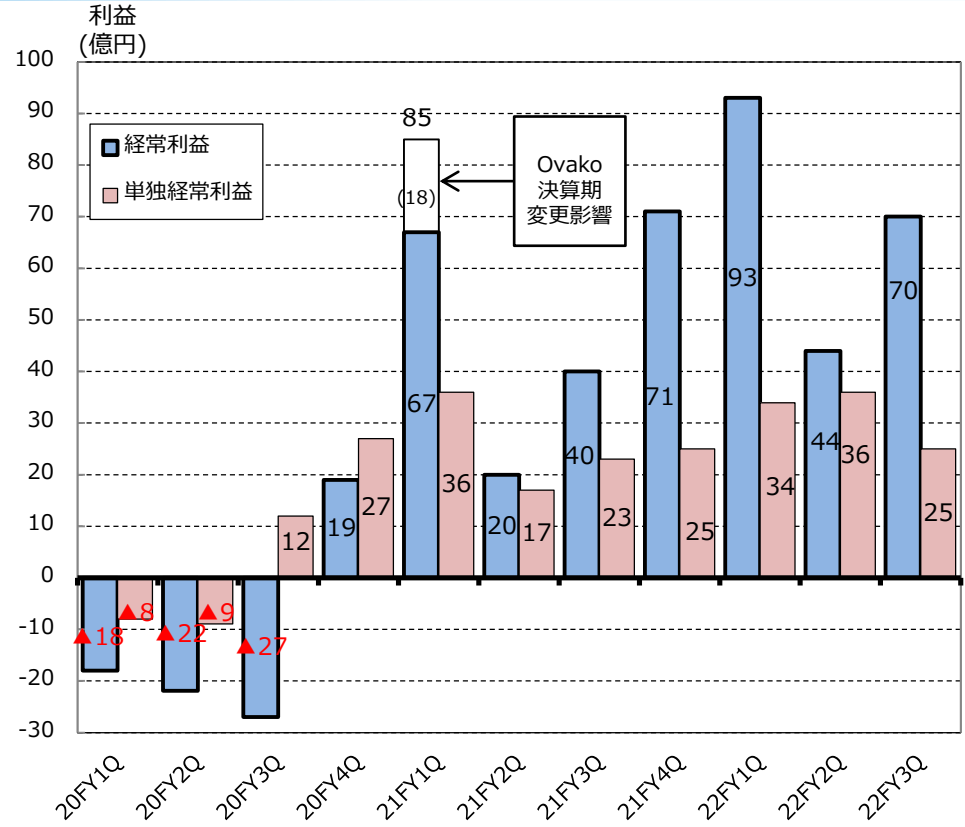
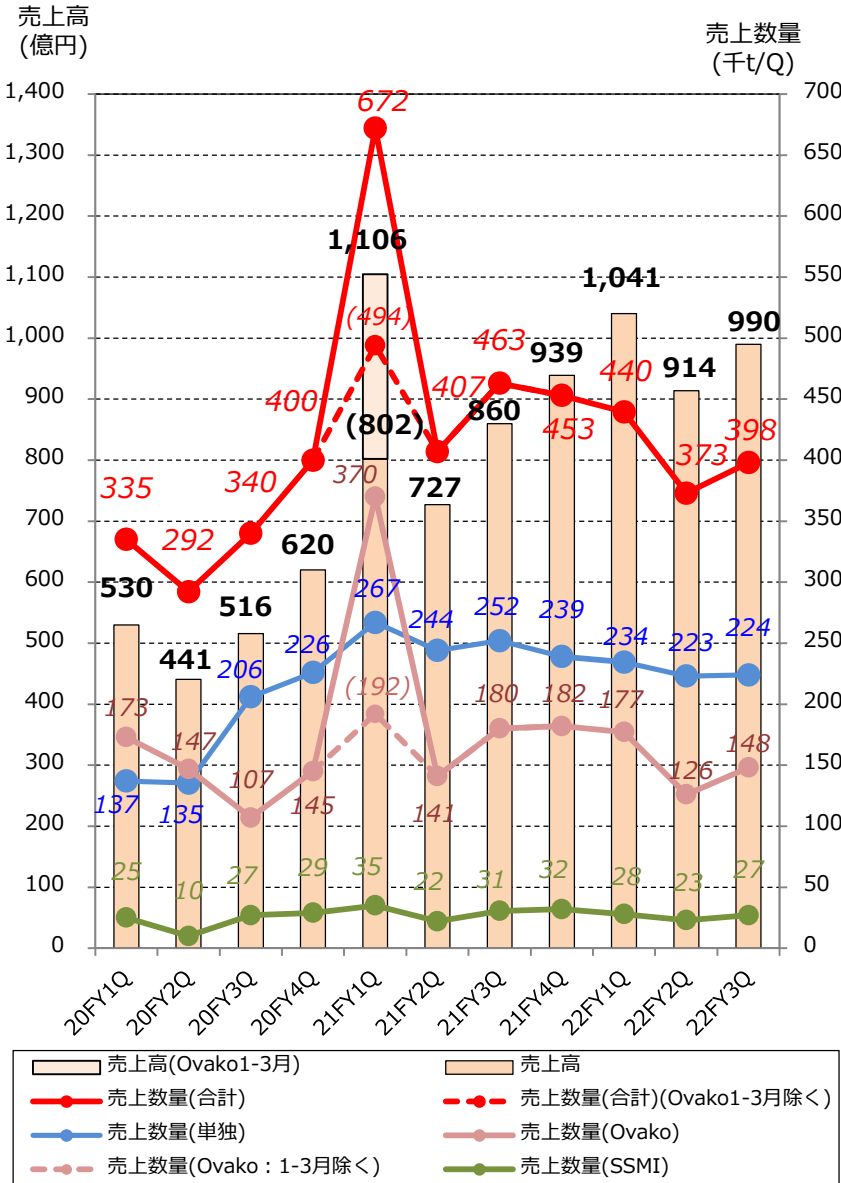
主要国自動車販売台数



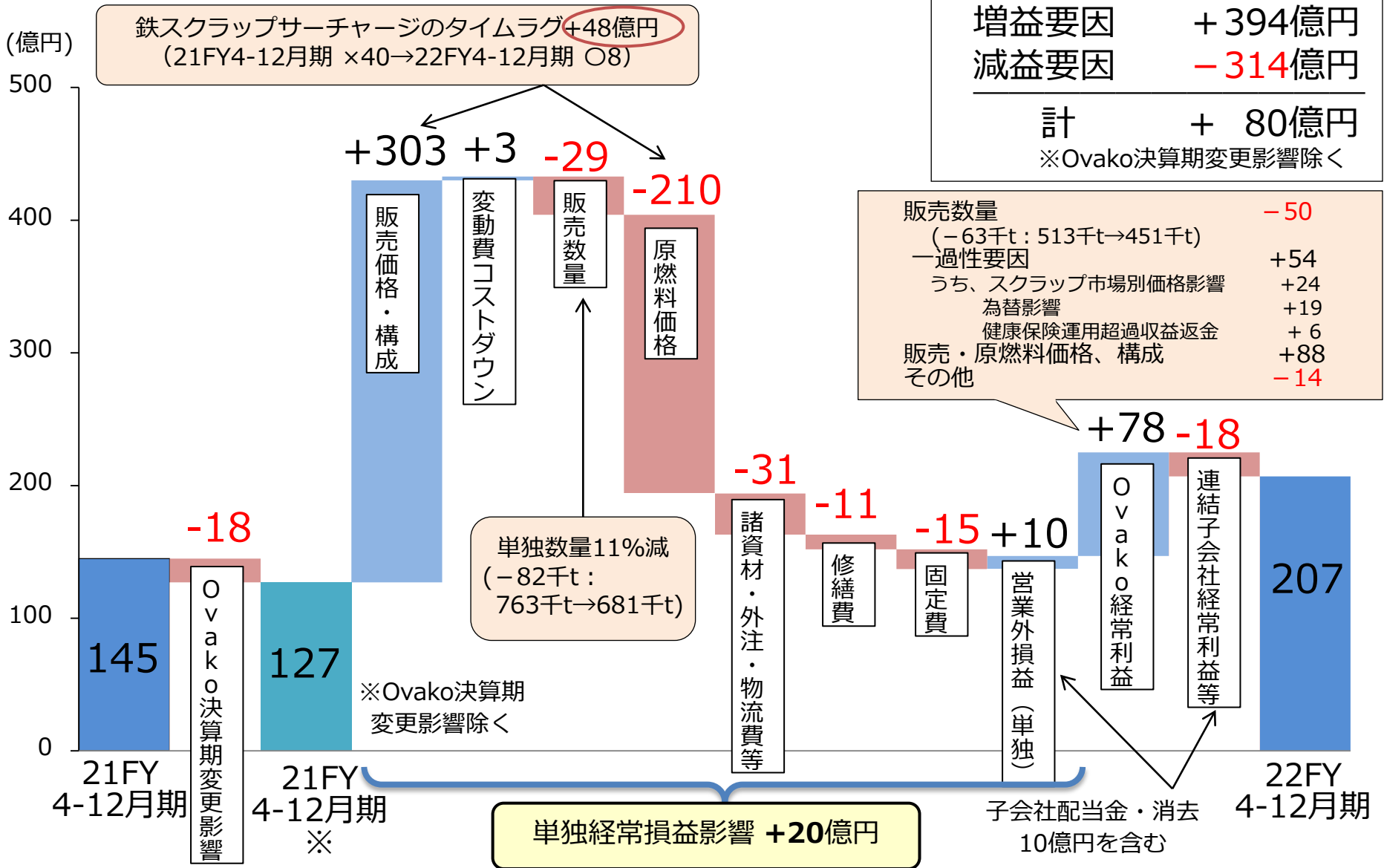
原燃料価格推移 (2020FY1Qを100とした指数表示)



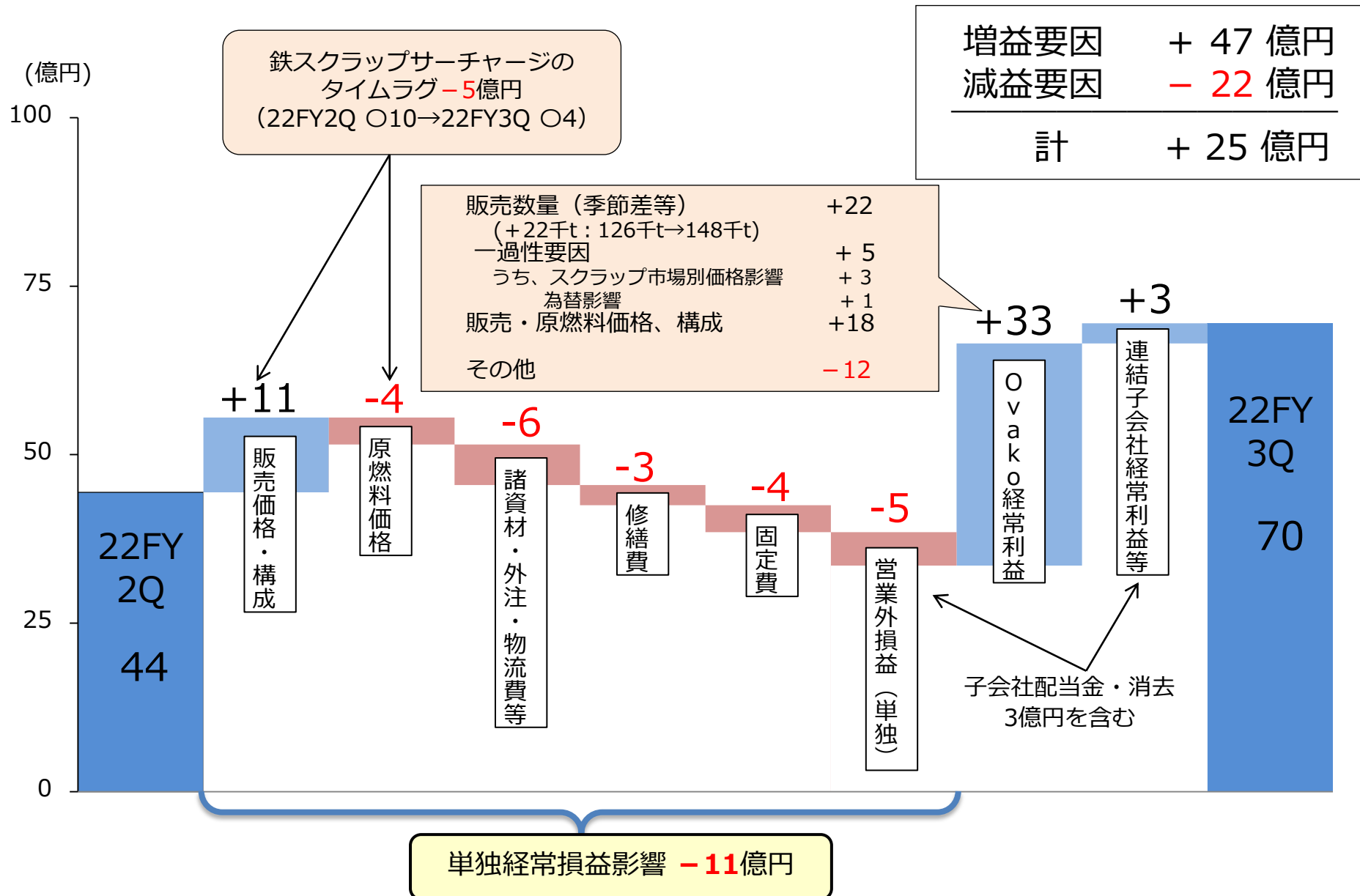
業績推移(四半期)



経常利益の変化要因 (2021FY4-12月期→2022FY4-12月期)



経常利益の変化要因 (2022FY2Q→2022FY3Q)



セグメント別損益

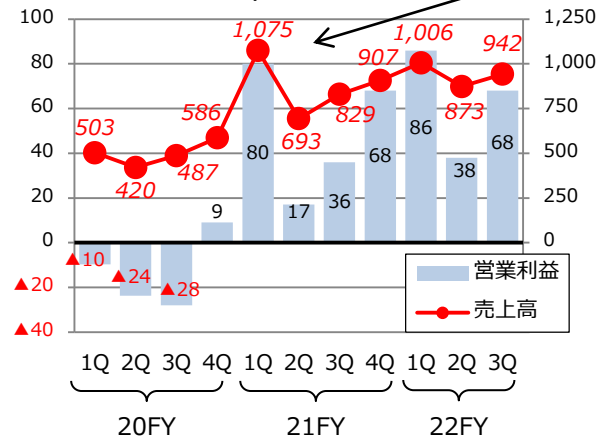
(単位：億円、%)

	2022FY4-12月期(A)			2021FY4-12月期(B)			対前年同期 (A) - (B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率
鋼材	2,821	192	6.8	2,596	134	5.2	+225	+58	+1.6
粉末	39	8	20.6	33	6	18.7	+6	+2	+1.9
素形材	149	3	2.3	134	4	2.6	+15	-0	-0.3
小計	3,009	203	6.8	2,763	144	5.2	+246	+60	+1.6
その他	10	0	2.5	7	0	0.4	+2	+0	+2.1
調整額	▲75	1	-	▲77	1	-	+2	+0	-
連結計	2,944	204	6.9	2,693	144	5.4	+251	+60	+1.6

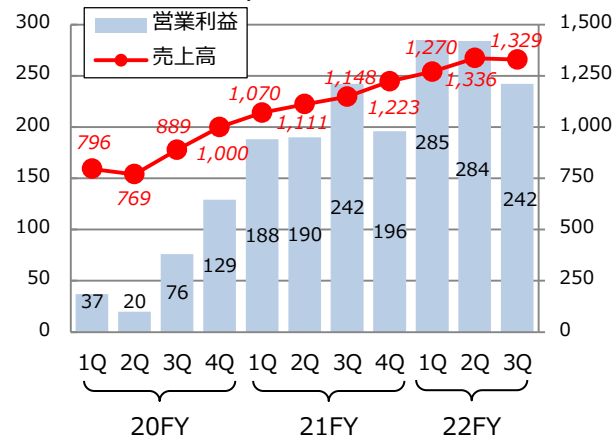
事業別損益推移

鋼材セグメントには
Ovako決算期変更影響を含む

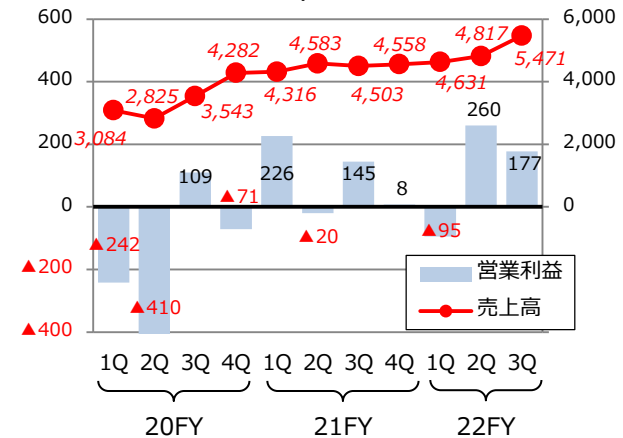
鋼材(単位:億円)



粉末(単位:百万円)



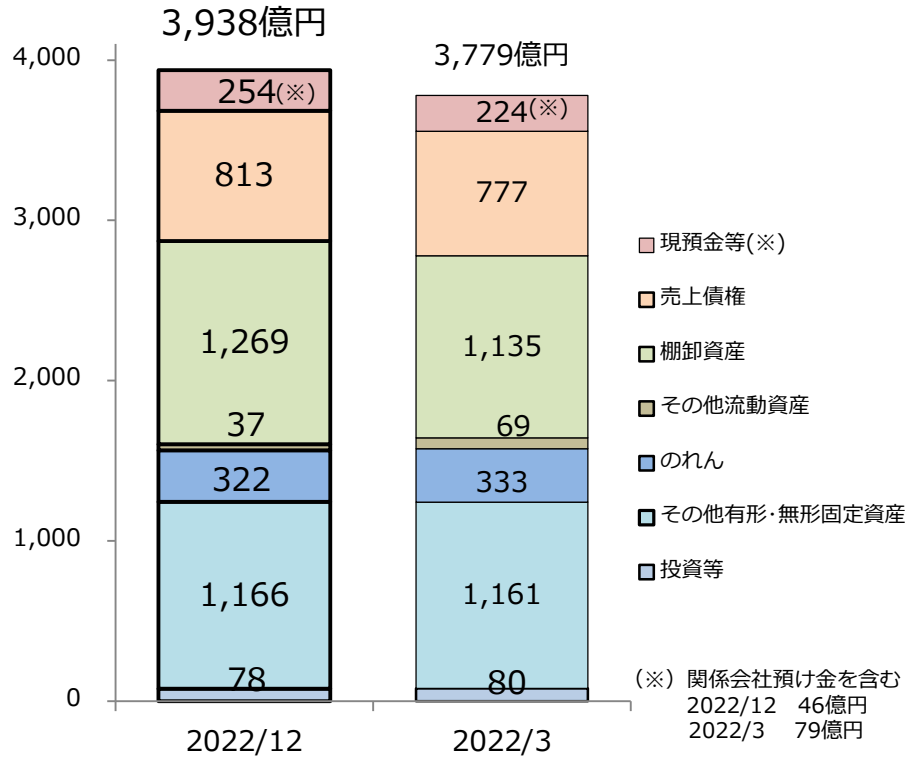
素形材(単位:百万円)



貸借対照表

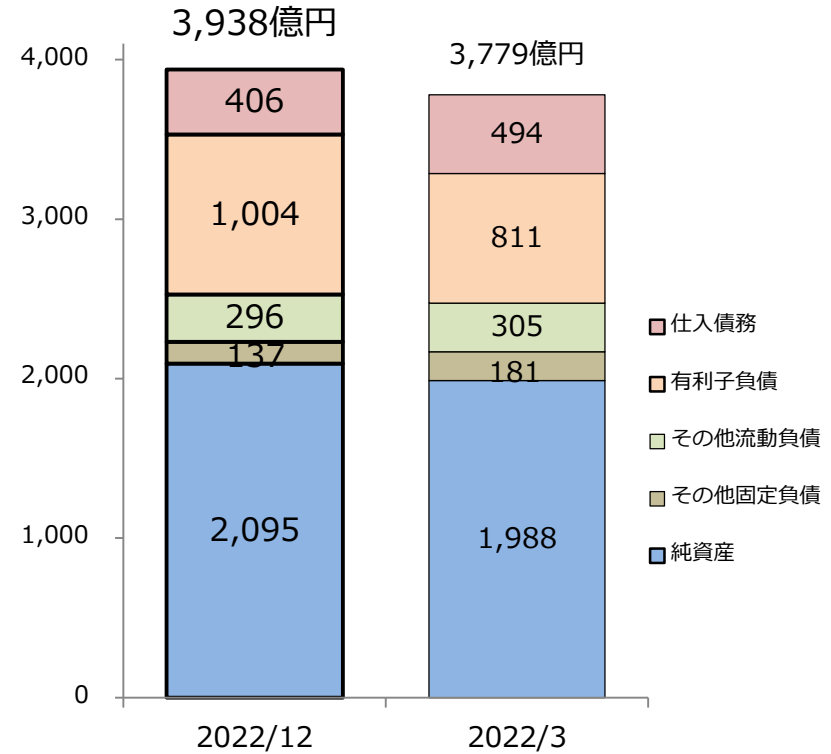
(億円)

資産



(億円)

負債・純資産



資産の主な増減 +159億円 (+4.2%)

棚卸資産 +134億円：原燃料価格の上昇等による増加
 売上債権 +36億円：金融機関休日影響による増加
 のれん -11億円：償却 -22億円、為替影響 +11億円

負債・純資産の主な増減 +159億円 (+4.2%)

仕入債務 -89億円：一部仕入品の支払時期の早期化等による減少
 有利子負債 +193億円：運転資金調達に伴う増加
 その他固定負債 -44億円：退職給付に係る負債の減少
 純資産 +106億円：利益剰余金+94億円 (税後利益+148億円、配当-54億円)

(参考)主要各社の総資産額(2022/12末:連結消去前)
 当社 2,833億円 Ovako 1,180億円 SSMI 144億円

自己資本比率
 2022/12末 52.7% 2022/3末 52.1%

2. 業績予想等

2022FY業績予想 (2023/2/1公表)

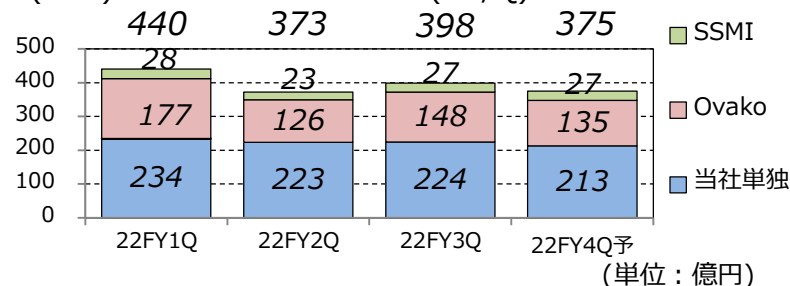
1. 2022FY見通し

・連結経常利益220億円(前回予想比+20億円)

前回予想に対し売上数量の減少を見込むものの、サーチャージ適用拡大等に伴う販売価格の上昇、一過性影響を含むOvakoの収益改善等により通期経常利益220億円を目指す

・適正マージンの確保、海外事業の収益力の強化に努め、事業基盤の強化を図る

(参考)2022FY売上数量見通し(千t/Q)



2. 2022FY業績予想

	今回予想(23/2/1)				前回予想(22/10/31)		増減		
	上期実績	下期		通期	下期	通期	前回予想 →今回予想	3Q→ 4Q予想	
		3Q実績	4Q予想						
売上高	1,954	990	926	1,916	3,870	1,896	3,850	+20	-64
営業利益	132	73	15	88	220	64	196	+24	-57
経常利益	137	70	13	83	220	63	200	+20	-57
内、当社単独	70	25	10	35	105	35	105	-	-15
内、Ovako	89	50	1	51	140	31	120	+20	-48
内、SSMI	▲2	▲2	2	0	▲2	2	0	-2	+3
内、のれん償却費	▲14	▲7	▲7	▲15	▲29	▲14	▲29	-	-
税後利益(注2)	99	49	12	61	160	47	146	+14	-37
のれん償却費を除く税後利益	113	56	20	76	189	62	175	+14	-37
売上数量(千t)	812	398	375	773	1,585	787	1,599	-14	-23
内、当社単独	458	224	213	437	894	423	881	+13	-10
内、Ovako	303	148	135	283	586	300	603	-17	-12
内、SSMI	51	27	27	54	105	64	115	-10	+0

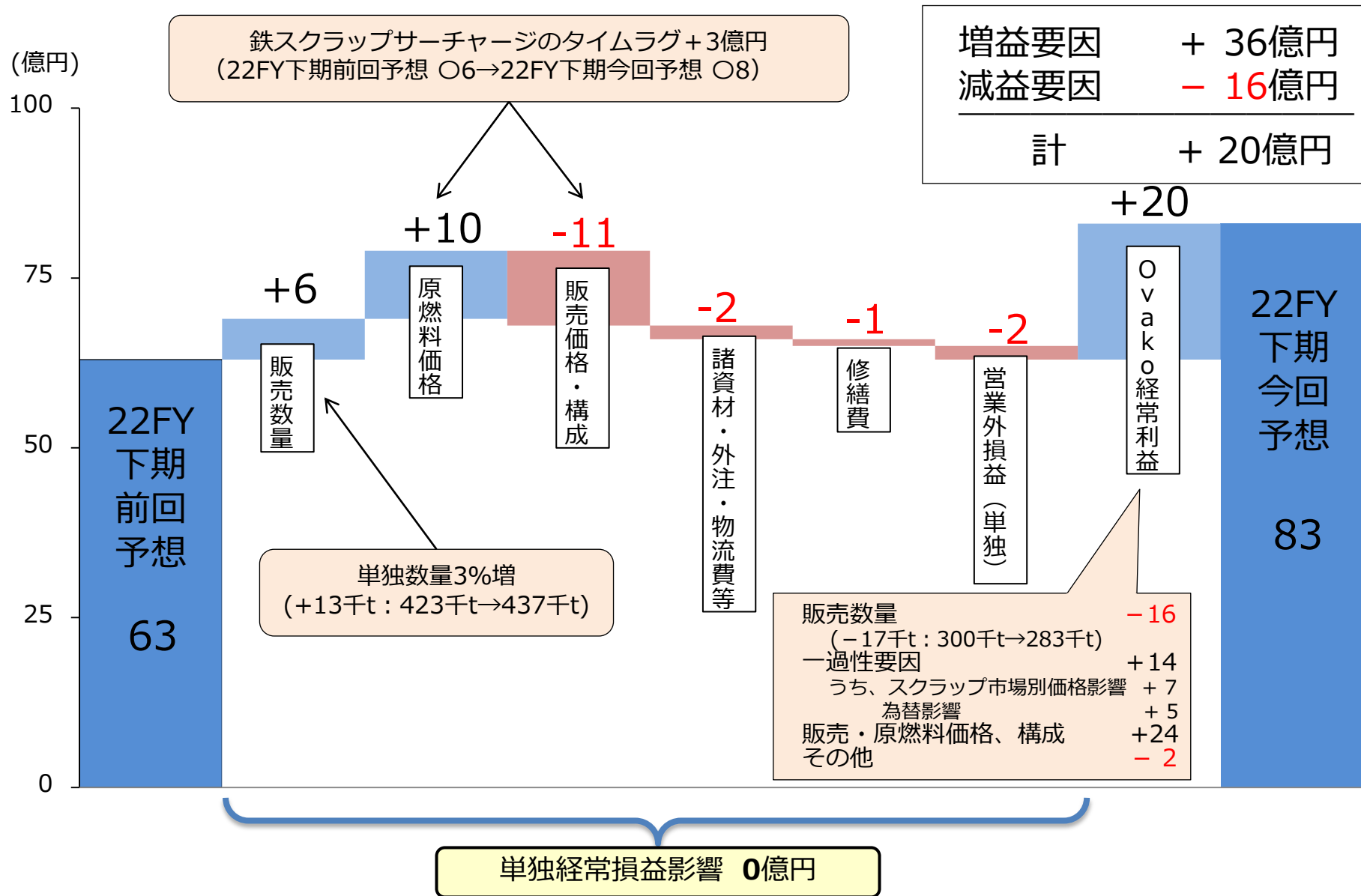
(注1) SSMI：1月～12月の数値

(注2) 親会社株主に帰属する当期純利益

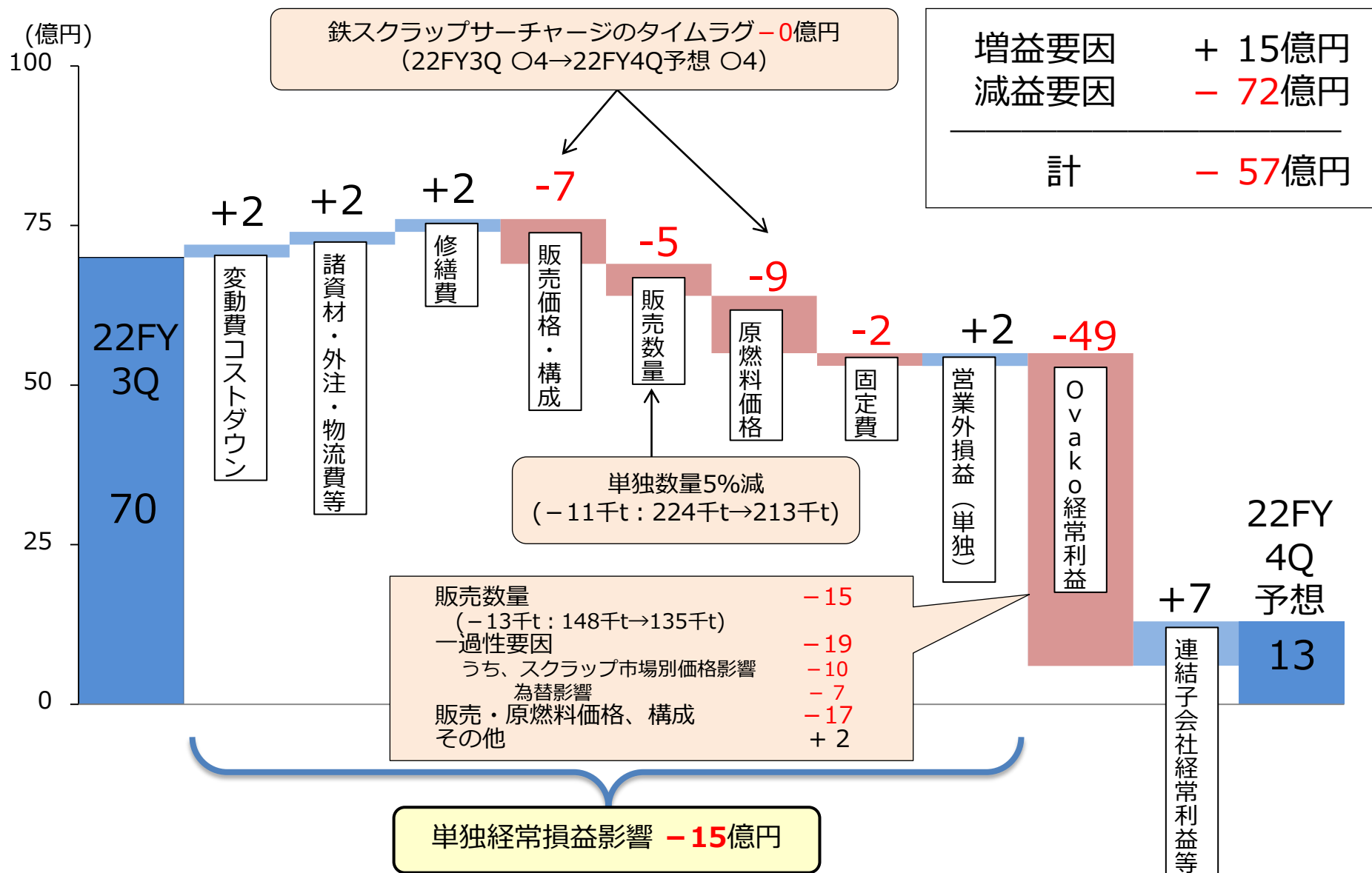
【予想の主要前提(2023年1月以降)】

・鉄スクラップ(購入) 50.0千円/t (姫路地区H2市況)
・原油(ドバイ) 90\$/BL ・為替 130円/\$、140円/€

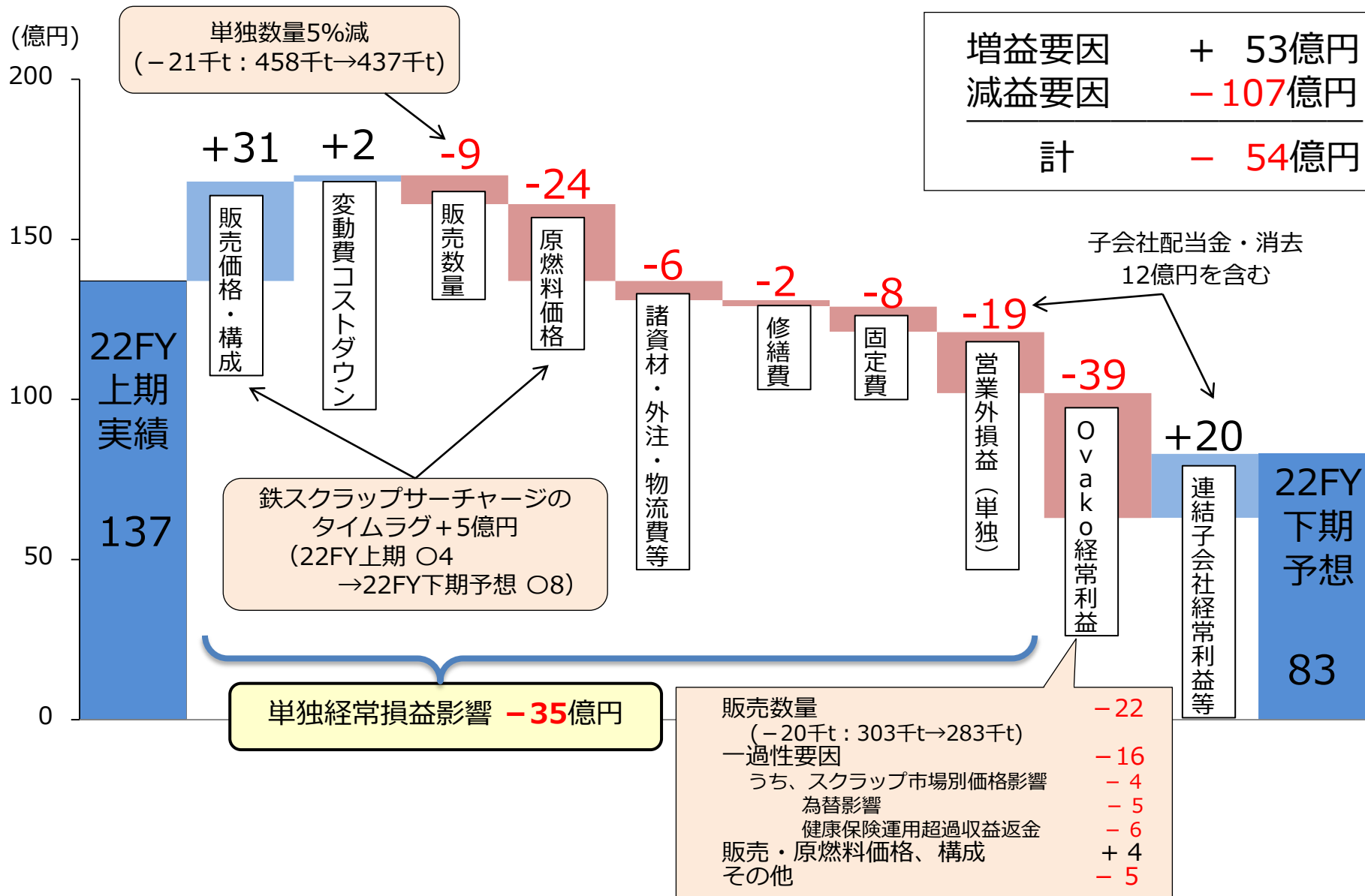
経常利益の変化要因 (2022FY下期前回予想→2022FY下期今回予想)



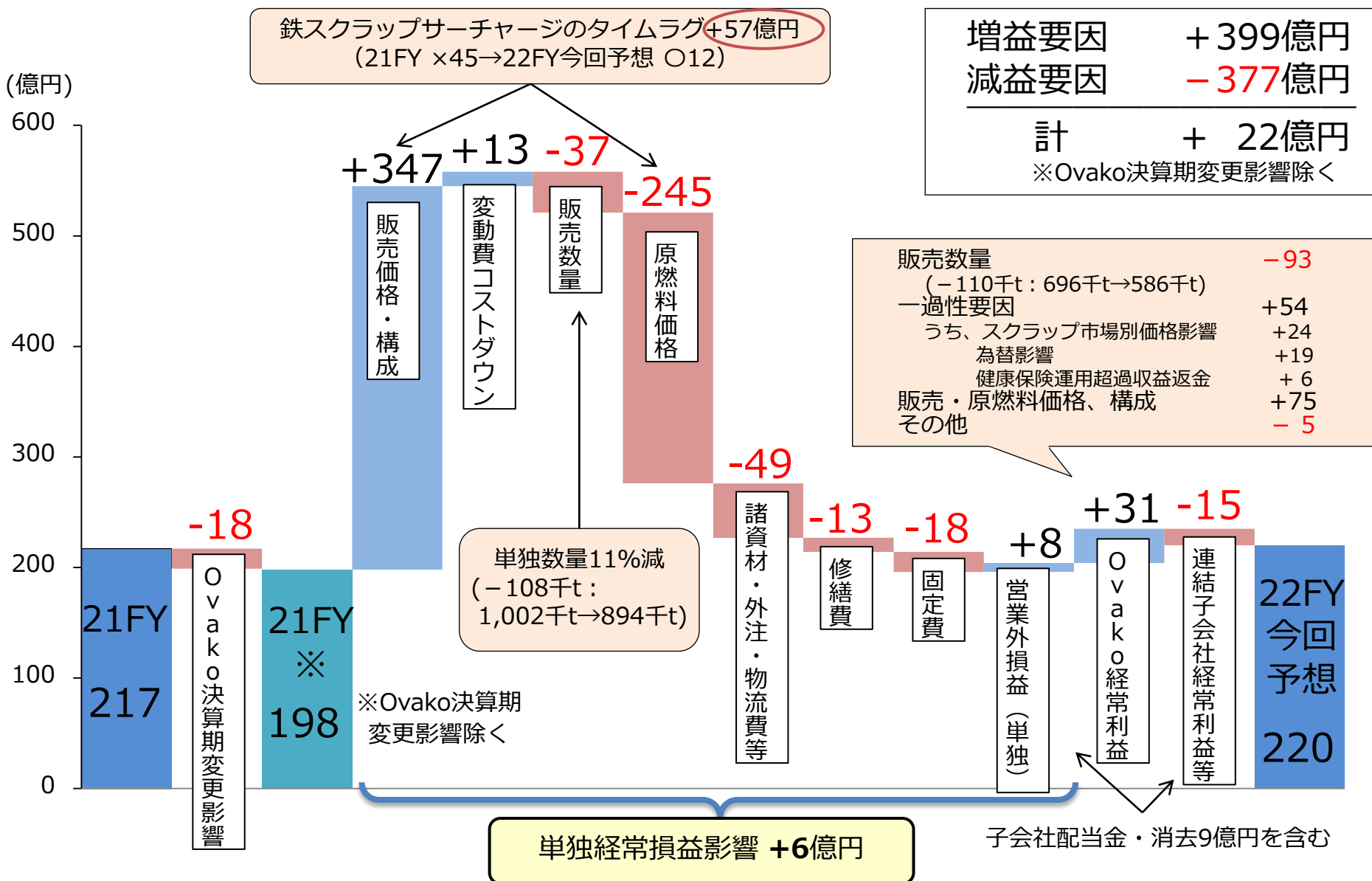
経常利益の変化要因 (2022FY3Q→2022FY4Q予想)



経常利益の変化要因 (2022FY上期→2022FY下期今回予想)



経常利益の変化要因 (2021FY→2022FY今回予想)



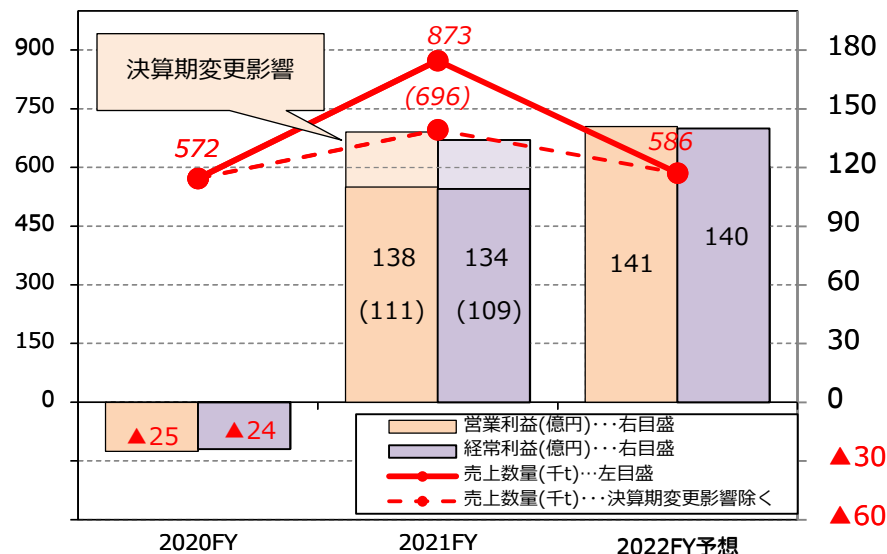
Ovakoの状況

2022FY見通し

2022FY：経常利益140億円（2021FY比+6億円 決算期変更影響を除くと+31億円）

- ・ウクライナ侵攻の長期化に伴う需要減退影響はあるものの、数量減をマージン改善でカバー、一過性要因もあり、前年比増益見込み。
- ・2022年4月1日からエネルギーサーチャージを導入。エネルギー価格の高騰に対しては**エネルギーサーチャージの適用**によりマージン確保を目指す。
- ・2022年1月にCN体制へ移行。**気候サーチャージの適用**に加え、CNであることの強みを活かし、需要減退時においても販売数量の確保を目指す。
- ・足元の急激なコストインフレを踏まえ、**インフレ対応等値上げ**に取り組み中。
- ・生産構造最適化の着実な実行を通じ、引き続き固定費のコントロールを徹底。

売上数量、営業利益、経常利益推移



収益力強化の取り組みと3社連携

- ・収益力の強化
 - ▶ ベース値上げ、気候サーチャージ、エネルギーサーチャージによるマージン改善
 - ▶ ミル間での能力の融通を含めた最適シフト体制を構築し、高生産水準下においても人員を抑制
 - ▶ 変動費の削減、固定費のコントロールを徹底し、持続的な損益分岐点の引き下げを図る
- ・3社連携によるシナジー効果の発揮
 - ① 拡販活動の推進
 - ② 操業支援によるコスト削減
 - ③ 調達コストの削減

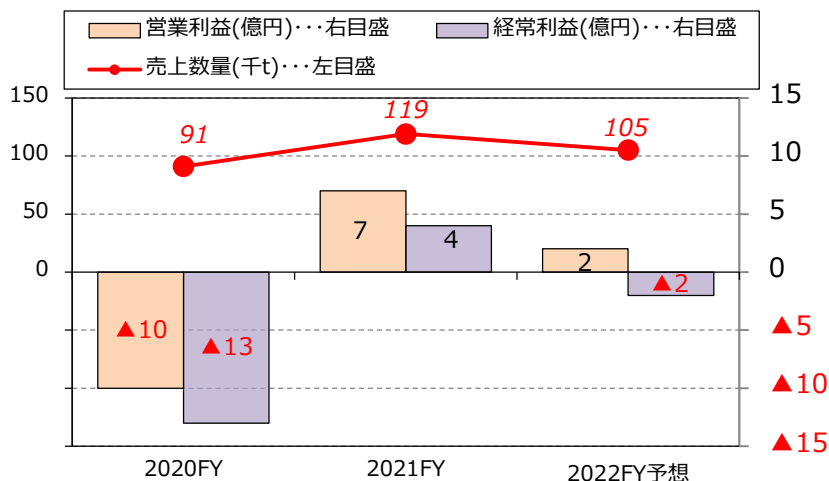
SSMIの状況

2022FY見通し

2022FY：経常利益▲2億円(2021FY比－6億円)

販売価格の値上げによるマージン改善、高収益分野を中心にした販売数量の拡大に加え、安価鉄源の有効活用や電力コスト低減の取り組み、および生産最適化等によるコスト改善施策を確実に遂行し、4Q黒字化を見込む。

売上数量、営業利益、経常利益推移



少数株主であるMahindra and Mahindra Limitedと締結していた商標ライセンス協約の期限を迎えたため、2022年6月23日付でMahindra Sanyo Special Steel Private Limited(MSSS)からSanyo Special Steel Manufacturing India Private Limited(SSMI)に商号変更いたしました。

収益確保に向けた取り組み

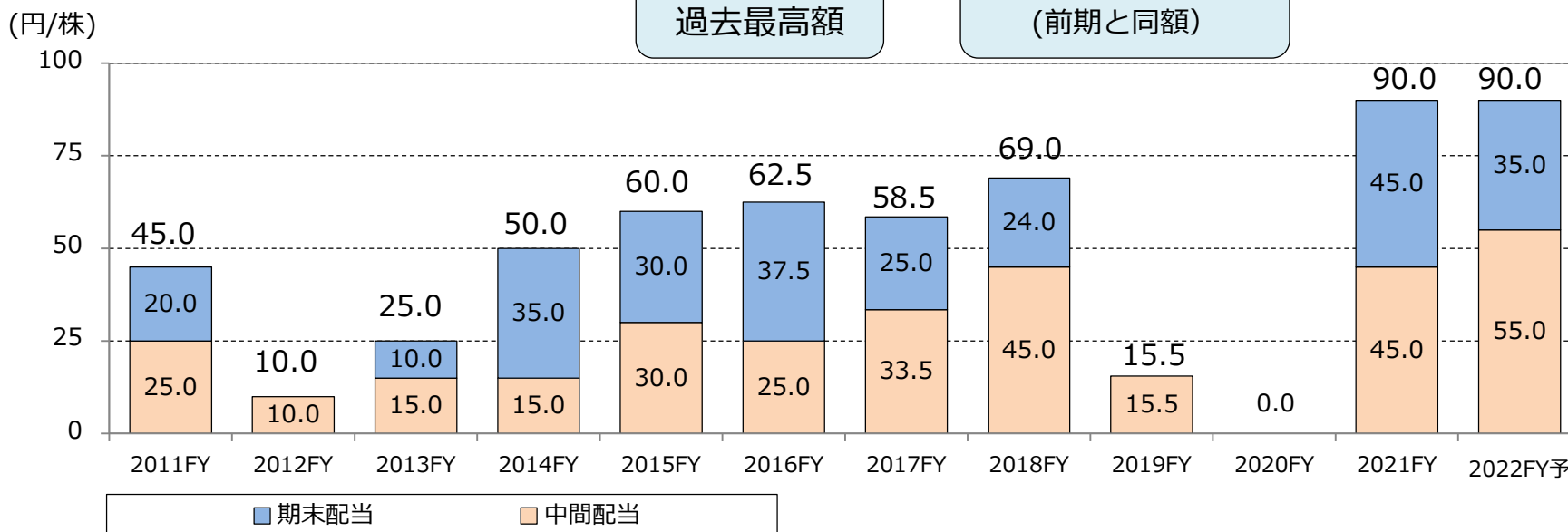
- ・営業基盤・営業体制の強化
高纯净度技術を生かした営業戦略策定、
拡販、販売構成の高度化、販売価格の改善
- ・変動費の削減
エネルギー原単位改善や安価原料の有効活用による
操業コスト・調達コストの削減
- ・固定費の抑制



当社のブランド力の礎である
高纯净度鋼のグローバル対応を強化し、
成長市場であるインドでの確固たるポジションを築く

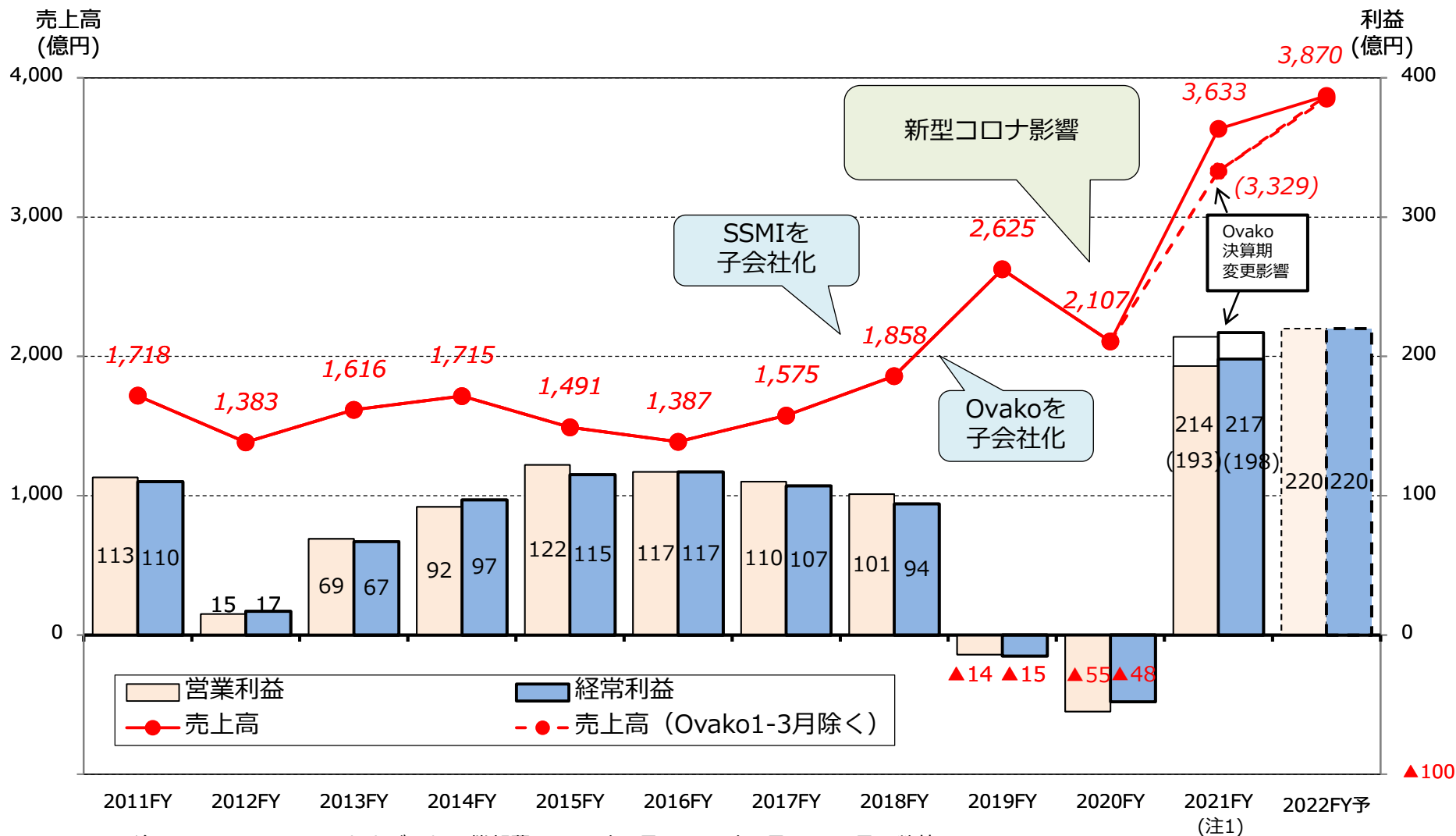
2022FY配当予想(2023/2/1公表)

			中間 (実績)	今回予想 (A) 23/2/1		前回予想 (B) 22/10/31		増減 (A)-(B)	
				期末	通期	期末	通期	期末	通期
1株当たり純利益	A	円/株	181.2	-	293.7	-	268.0	-	+25.7
のれん償却費を除く 1株当たり純利益	B	円/株	207.5	-	346.9	-	321.2	-	+25.7
1株当たり配当金	C	円/株	55.0	35.0	90.0	30.0	85.0	+5.0	+5.0
配当性向	C/B	%	26.5	-	25.9	-	26.5	-	-0.6
	C/A	%	30.4	-	30.6	-	31.7	-	-1.1



(注) 2017年10月1日に株式併合(5株を1株)を実施。当該株式併合を踏まえて換算。

業績推移(年度)



(注1) 2021FYのOvakoおよびのれん償却費は2021年1月～2022年3月の15カ月の数値。

(注2) SSMIは2018FY2Qから、Ovakoは2019FY1Qから損益を連結。

3. トピックス

トピックス

(1)環境ラベル「エコリーフ」の認証を取得 (2023年1月20日公表)

当社は、国内特殊鋼専門メーカーで初めてエコリーフの認証を取得。

当社製品に関する客観的で透明性の高い環境情報をお客様に提示することが可能となった。



エコリーフ

製品の全ライフサイクルを踏まえた定量的な環境情報を開示する環境ラベル。

第三者検証によって信頼性・透明性が確保されたデータの開示により、お客様が環境に配慮した製品選択を行ううえで判断材料とすることが可能。

(2)CDP気候変動スコア「B」を取得 (2022年12月13日)

当社は、2022年に7月に初めてCDPの気候変動質問書に回答し「B」の評価を取得。

CDPは、グローバルな環境情報開示システムを運営する英国の非政府組織(NGO)。2022年は、全世界18,700社以上の企業を調査し、対象企業の気候変動等への対応等をAからD-までの8段階のスコアで評価。



「山陽特殊製鋼レポート 2022」 (統合報告書)を発行 (2022年11月15日)

当社ホームページにて閲覧可能



(<https://www.sanyo-steel.co.jp/social/csr2022.php>)

トピックス

(3)地域社会への貢献・交流

図書寄贈
(2022年11月)

当社文化振興財団が姫路市内の小学校23校に児童図書を寄贈。

小学生の社会科見学受入・出張授業
(2022年11月～12月)

近隣小学校の児童を対象に工場見学会および出張授業を実施。姫路市内4校の児童に特殊鋼の製造工程や当社のSDGsへの取り組みを紹介。

陸上教室
(2022年12月)

当社陸上競技部が、相生市教育委員会主催の陸上教室で約60名の小中学生を指導。

ニューイヤーコンサート
(2023年1月)

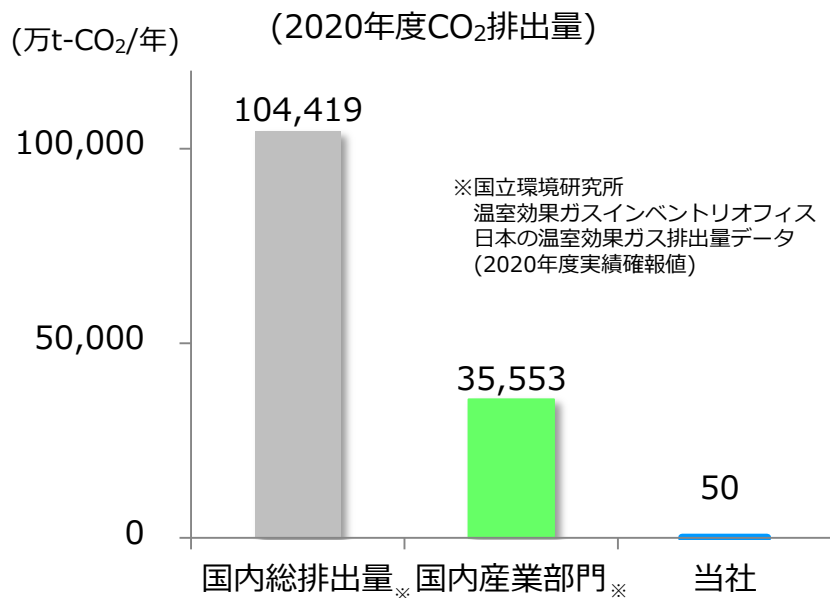
当社文化振興財団が開催。姫路市内の小中学生約150名が音楽ホールで合唱や演奏を披露。



4. 2050年カーボンニュートラル(CN) 実現に向けた取り組み

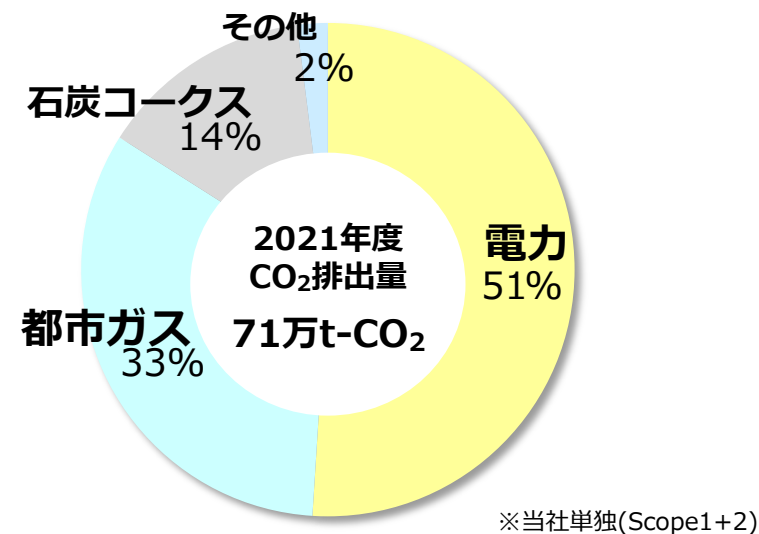
当社の状況とカーボンニュートラルに向けた考え方

CO₂排出量における当社の位置づけ



- 再生資源である鉄スクラップを主原料として特殊鋼を製造する当社のCO₂排出量は、国内産業部門の0.2%程度

当社のCO₂排出量内訳



- 当社のCO₂排出の80%以上が電力と都市ガス

製造工程における省エネとグリーンエネルギーの活用、およびエコプロダクト・エコソリューションによる貢献で、自社の製造工程だけでなく、社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減を目指す

GXリーグ基本構想への賛同

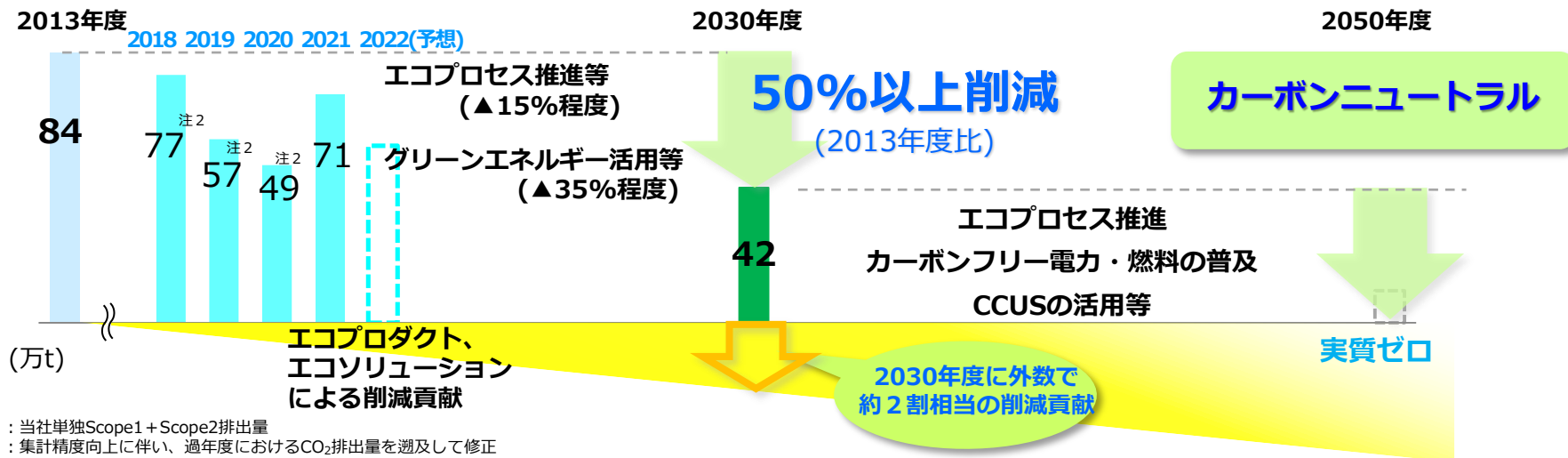
GXリーグとは、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、GX(グリーントランスフォーメーション)への挑戦を行うプレイヤーと共に、経済社会システム全体の変革のための議論と新たな市場の創造のための実践を行う場として設立されたもの。

当社は、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、企業の成長、生活者の幸福そして地球環境への貢献が同時に実現される経済社会システム全体の変革を目指す「GXリーグ基本構想」に賛同。



2050年に向けた当社のロードマップ

【当社CO₂排出量注1】



注1：当社単独Scope1+Scope2排出量

注2：集計精度向上に伴い、過年度におけるCO₂排出量を遡及して修正

注3：各年度の排出量は、契約電力会社の電力排出係数（温室効果ガス排出量算定用）より算出

エコプロセス



■リジエネバーナーを
採用した省エネ加熱炉

製造現場を中心とした全社の
省エネ対策やエネルギー効率
を高める製造技術開発を推進

グリーンエネルギー活用



カーボンフリー電力や脱化石
燃料、自然エネルギーの活用

※2022年度から再エネ由来電力の
一部活用を開始

エコプロダクト



■長寿命風力発電用
軸受鋼の開発

製品を使用する段階でCO₂排出
削減に貢献する商品や、需要
家のエコプロセスに貢献する
商品の開発・供給を推進

エコソリューション



■海外グループ会社
への技術展開

エネルギー原単位削減に寄与
する省エネや生産性向上技術
をOvako、SSMI等の海外グ
ループ会社に展開

エコプロダクトによるCO₂排出量削減への貢献

当社は、お客様での部品製造や最終製品としての使用段階におけるCO₂排出削減に貢献するエコプロダクトの開発に注力

長寿命軸受鋼

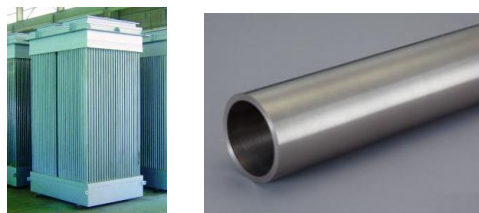


耐久性・信頼性向上による
部品の小型・軽量化



長寿命化による
故障率低減・メンテフリー化

耐熱ステンレス鋼管



高強度化による
熱回収効率向上



高耐食性化による
ごみ発電高効率化

高硬度高靱性鋼



新成分+新熱処理技術による
部品硬化熱処理負荷の軽減



- 当社材料技術を活用したエコプロダクトによる社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減貢献を目指す
- 今後も長寿命化等、材料特性をさらに強化したエコプロダクトの実装と一層の普及を図ることで、カーボンニュートラル社会の早期実現に貢献していく

欧州子会社Ovakoの取り組み

世界初 水素を燃料に用いた鋼片加熱に成功

カーボンフリー水素プラントの建設に着手

SBT(目標設定)をコミット

※ SBT (Science Based Targets)
 パリ協定が求める水準と整合した、5年~10年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のこと

特殊鋼製造プロセスで排出するCO₂を 2015年比57%削減

2022年1月から カーボンニュートラルに移行

自社の製造プロセスにおける CO₂排出を実質ゼロに

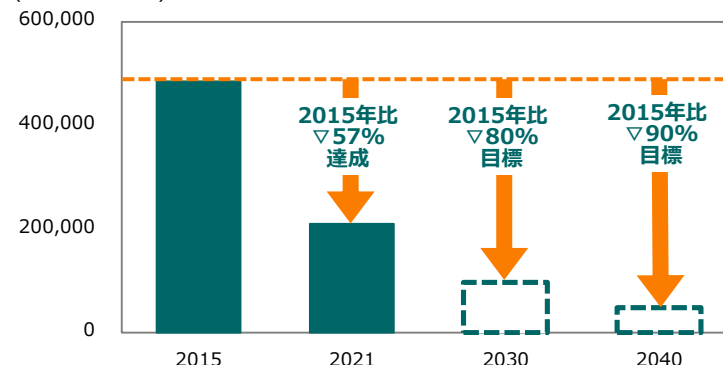
- ✓ カーボンオフセットプログラムを活用し、残るCO₂排出量を相殺
- ✓ 気候サーチャージを適用

顧客との協同取り組み事例

- SKFと協同し、CO₂排出量90%減の軸受生産を達成
- Volvoの温室効果ガス ネットゼロ自動車製造プロジェクトへ参画

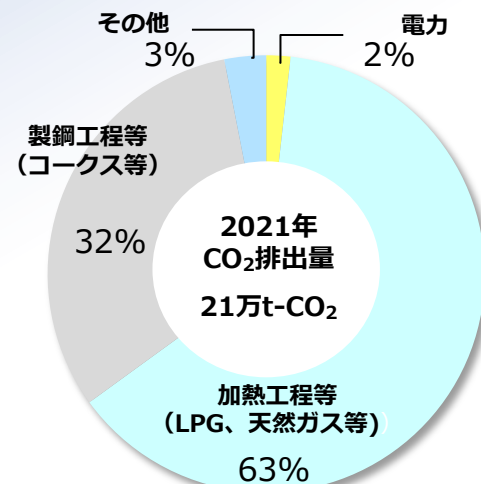
OvakoのCO₂排出量(Scope1+2)ロードマップ

(Total CO₂e ton)



Ovako SUSTAINABILITY REPORT 2021をもとに作成

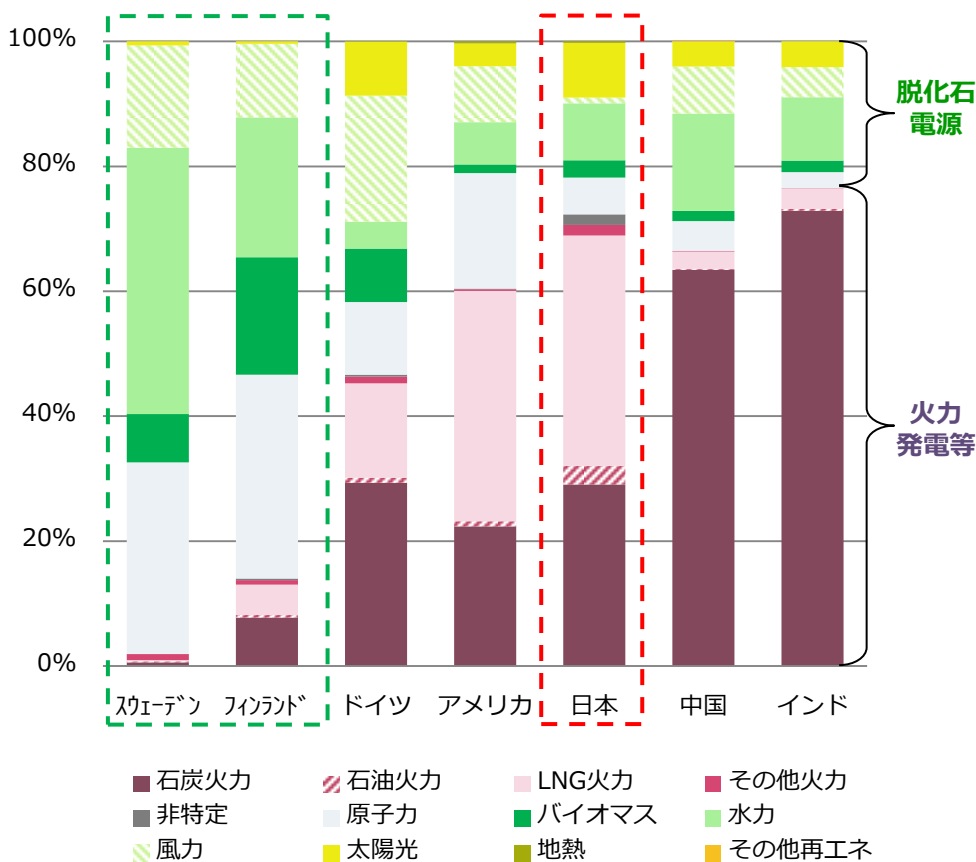
OvakoのCO₂排出量内訳



各国の電源構成と産業用電力価格

■ 電源構成(2021年)

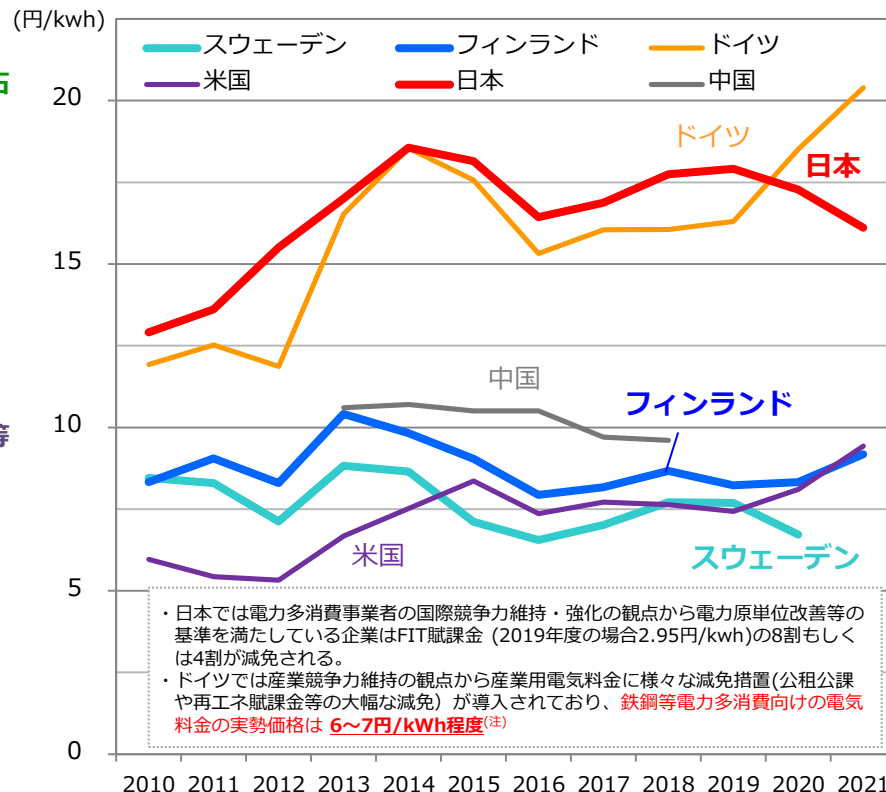
Ovakoの生産拠点が立地するスウェーデン、フィンランドは脱化石電力(水力、風力、原子力)比率が圧倒的に高い



※ IEA(国際エネルギー機関)「Monthly Electricity Statistics」より当社作成

■ 産業用電力価格の推移

スウェーデン、フィンランドの産業用電力価格は日本の1/2~1/3程度



・日本では電力多消費事業者の国際競争力維持・強化の観点から電力原単位改善等の基準を満たしている企業はFIT賦課金(2019年度の場合2.95円/kWh)の8割もしくは4割が減免される。
 ・ドイツでは産業競争力維持の観点から産業用電気料金に様々な減免措置(公租公課や再エネ賦課金等の大幅な減免)が導入されており、鉄鋼等電力多消費向けの電気料金の実勢価格は **6~7円/kWh程度**(注)

※ スウェーデン・フィンランド・ドイツ・米国・日本については英国ビジネス・エネルギー・産業戦略省「Industrial electricity prices in the IEA」より、中国については、(公財)自然エネルギー財団「中国の電力システム改革」より当社作成

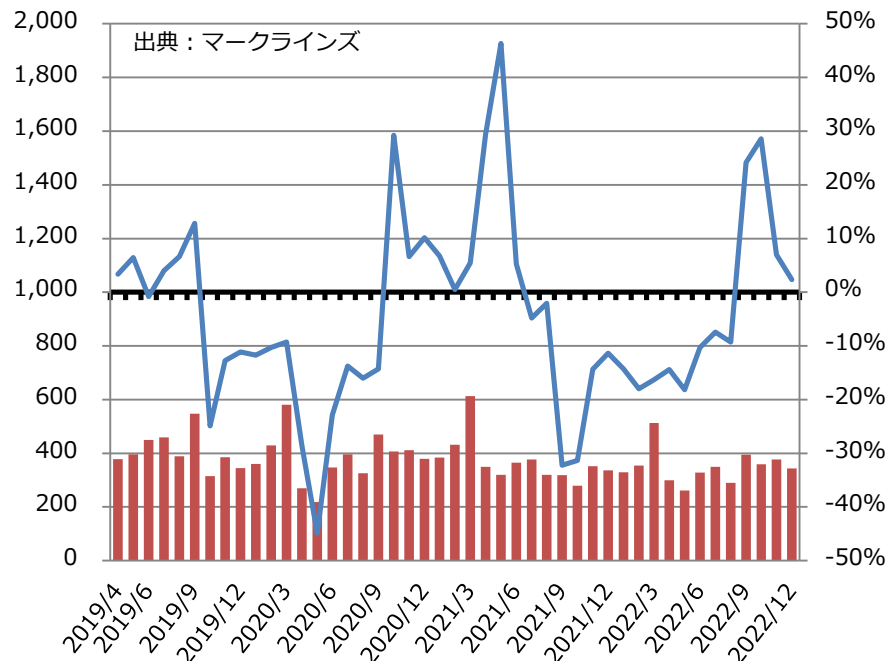
(注) 国際環境経済研究所「海外のカーボンプライシングの実態」

5. 參考資料

自動車市場の動向

日本自動車販売台数 (前年同月比増減率)

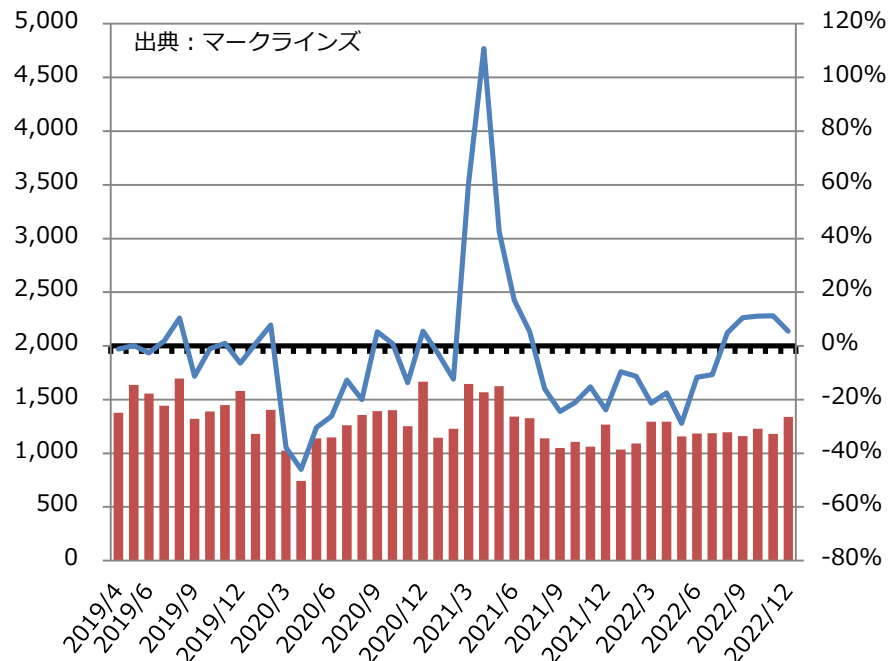
(台数：千台)



- ・2020/5を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・2021/5：前年同月比 +46.3% (前年同期大幅減の反動)
- ・以降、自動車減産等により、低位で推移
- ・2022/12：前年同月比 +2.4%

米国自動車販売台数 (前年同月比増減率)

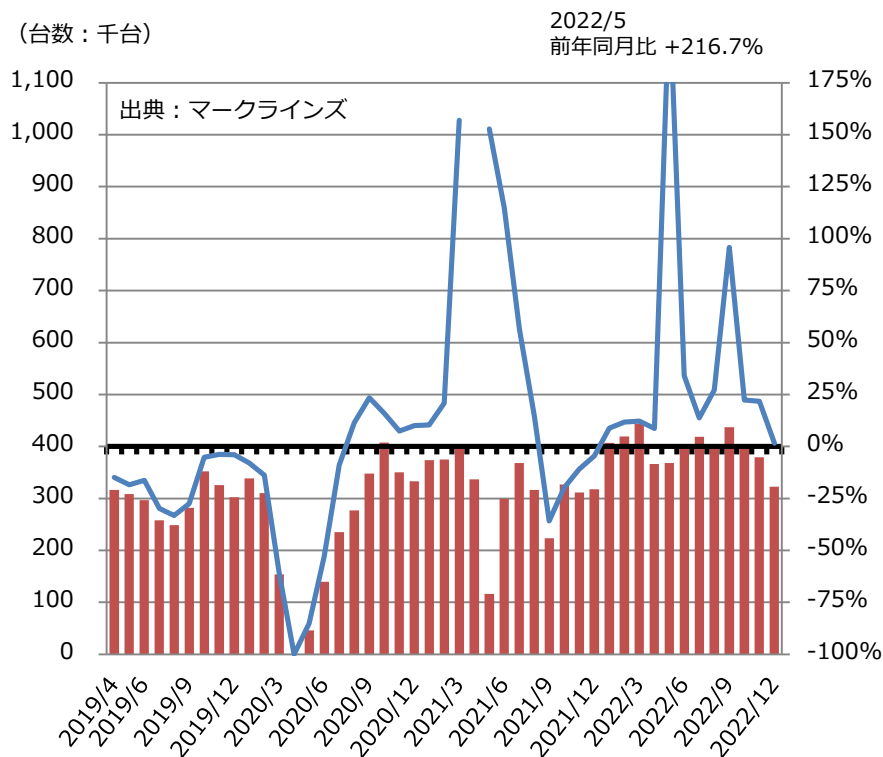
(台数：千台)



- ・2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・2021/4：前年同月比 +108.6% (前年同期大幅減の反動)
- ・以降、自動車減産等により、低位で推移
- ・2022/12：前年同月比 +5.5%

自動車市場の動向

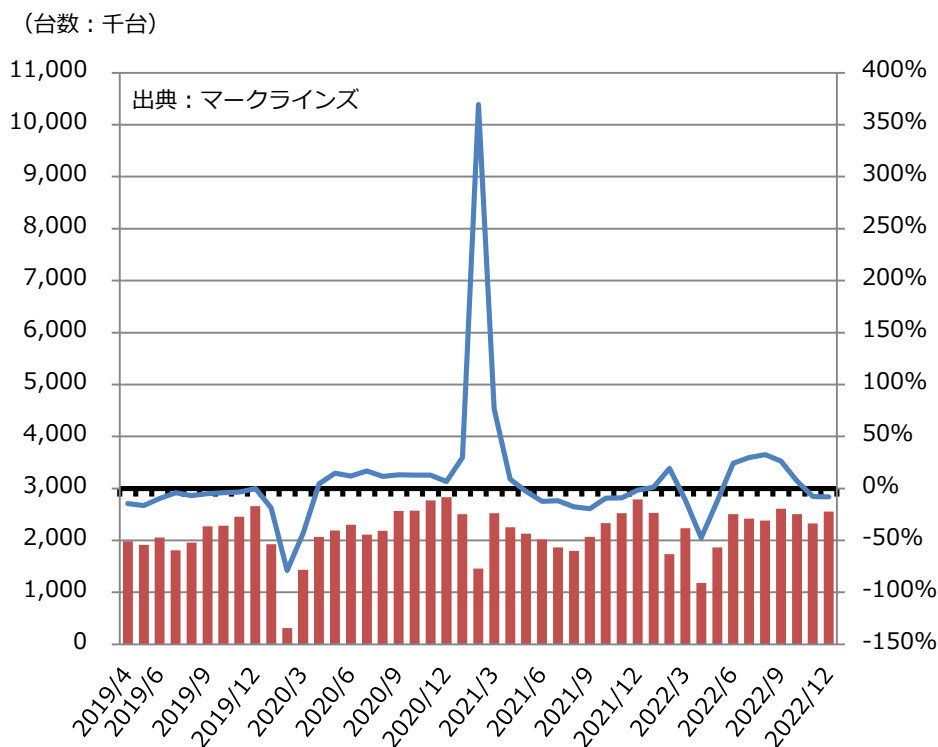
インド自動車販売台数 (前年同月比増減率)



- ・2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・2021/5：新型コロナウイルス再拡大影響により一時的に落込みがあったもののその後回復傾向
- ・2022/12：前年同月比 +1.5%

中国自動車販売台数(工場出荷台数ベース)

(前年同月比増減率)

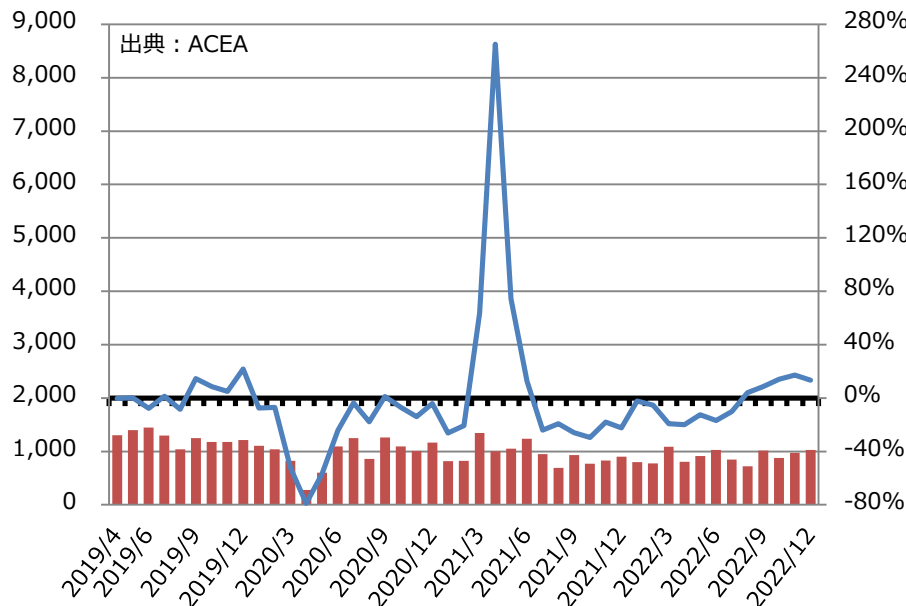


- ・2020/2を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・2021/6：世界的な半導体不足による自動車生産減少影響で前年同月比 -12.4%
- ・2022/4：新型コロナウイルスの感染再拡大の影響で -47.6%
- ・2022/12：前年同月比 -8.2%

自動車市場の動向

欧州自動車販売台数 (前年同月比増減率)

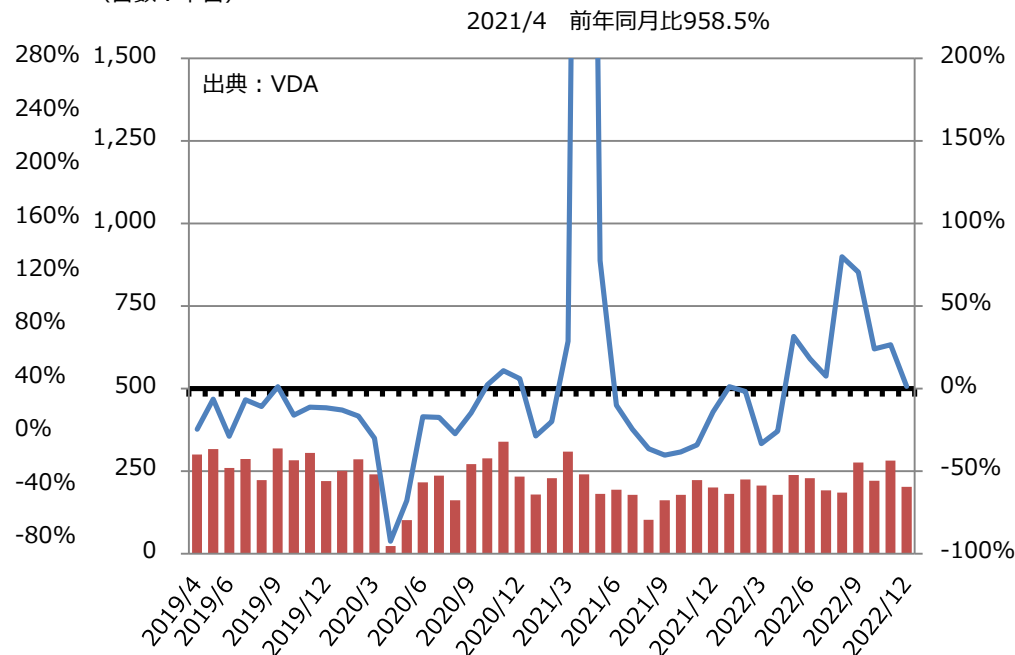
(台数：千台)



- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +265.0%(前年同月大幅減の反動)
- ・ 以降、自動車減産等により、低位で推移
- ・ 2022/12 : 前年同月比 +13.5%

ドイツ自動車輸出台数 (前年同月比増減率)

(台数：千台)



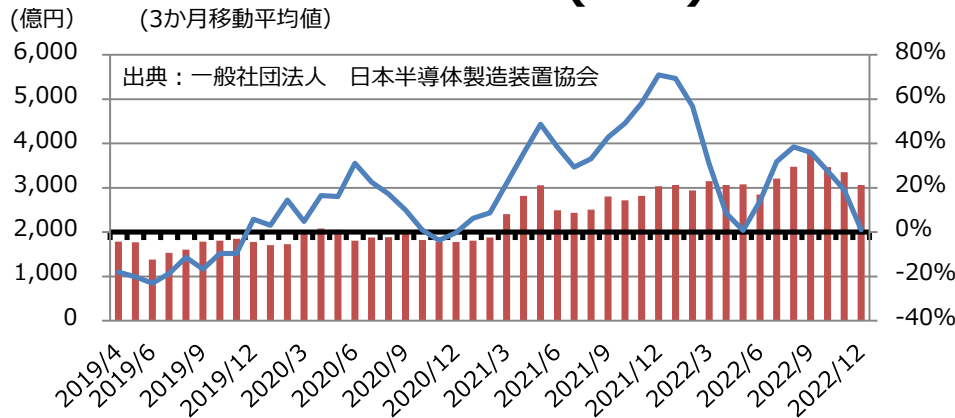
- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +958.5%(前年同月大幅減の反動)
- ・ 以降、自動車減産等により、低位で推移
- ・ 2022/12 : 前年同月比 +1.3%

産業機械・建設機械市場の動向

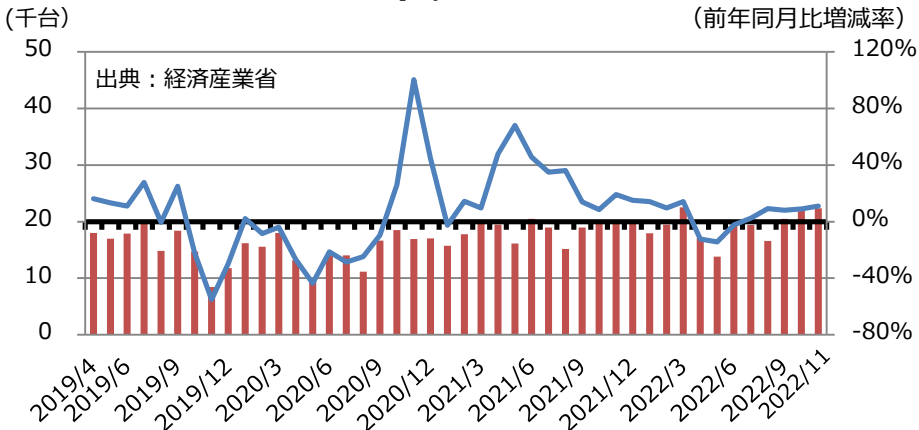
工作機械受注金額（日本）（前年同月比増減率）



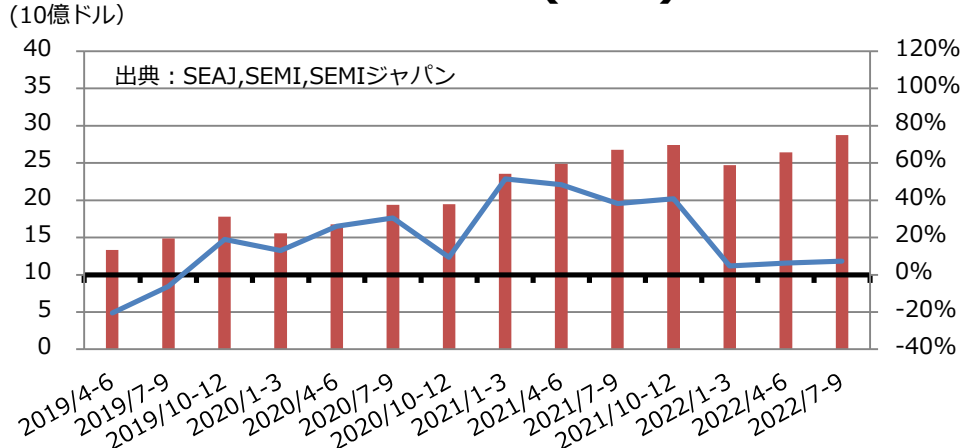
半導体製造装置販売金額(日本)（前年同月比増減率）



ショベル系建設機械国内生産台数



半導体製造装置販売金額(世界)（前年同月比増減率）

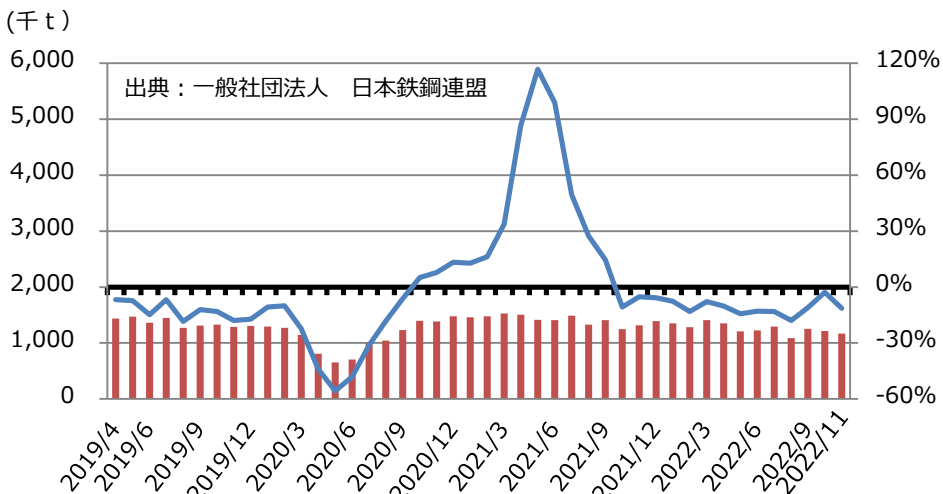


工作機械 : 新型コロナウイルス影響で2020/5に前年同月比-53%まで下落。足元では同+1.0%
半導体製造装置 : 2020/7以降、米中貿易摩擦の影響で日本では前年同月比減少傾向
 2020/12以降は、5G普及による需要増、世界的な供給不足に伴うメーカーの増産投資意欲の高まりで回復
 2022/12は前年同月比+1.1%
建設機械 : 2020/2以降は新型コロナウイルス影響で前年同月比でマイナス推移
 2020/10以降は中国や欧米での需要回復と前年の反動で前年同月比プラス
 2022/11は前年同月比+11.0%

特殊鋼需要の動向

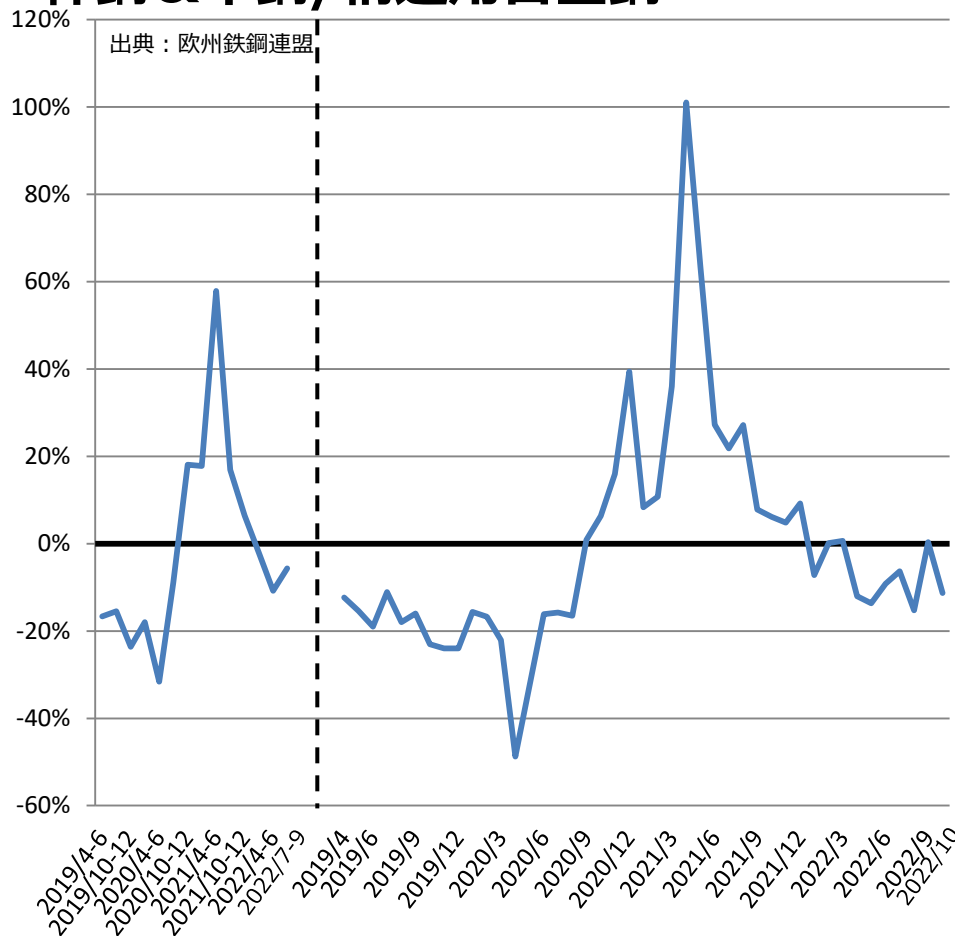
日本特殊鋼受注数量（特殊鋼）

(前年同月比増減率)



欧州デリバリー数量 棒鋼&平鋼/構造用合金鋼

(前年同月比増減率)



日本特殊鋼受注数量（軸受鋼）

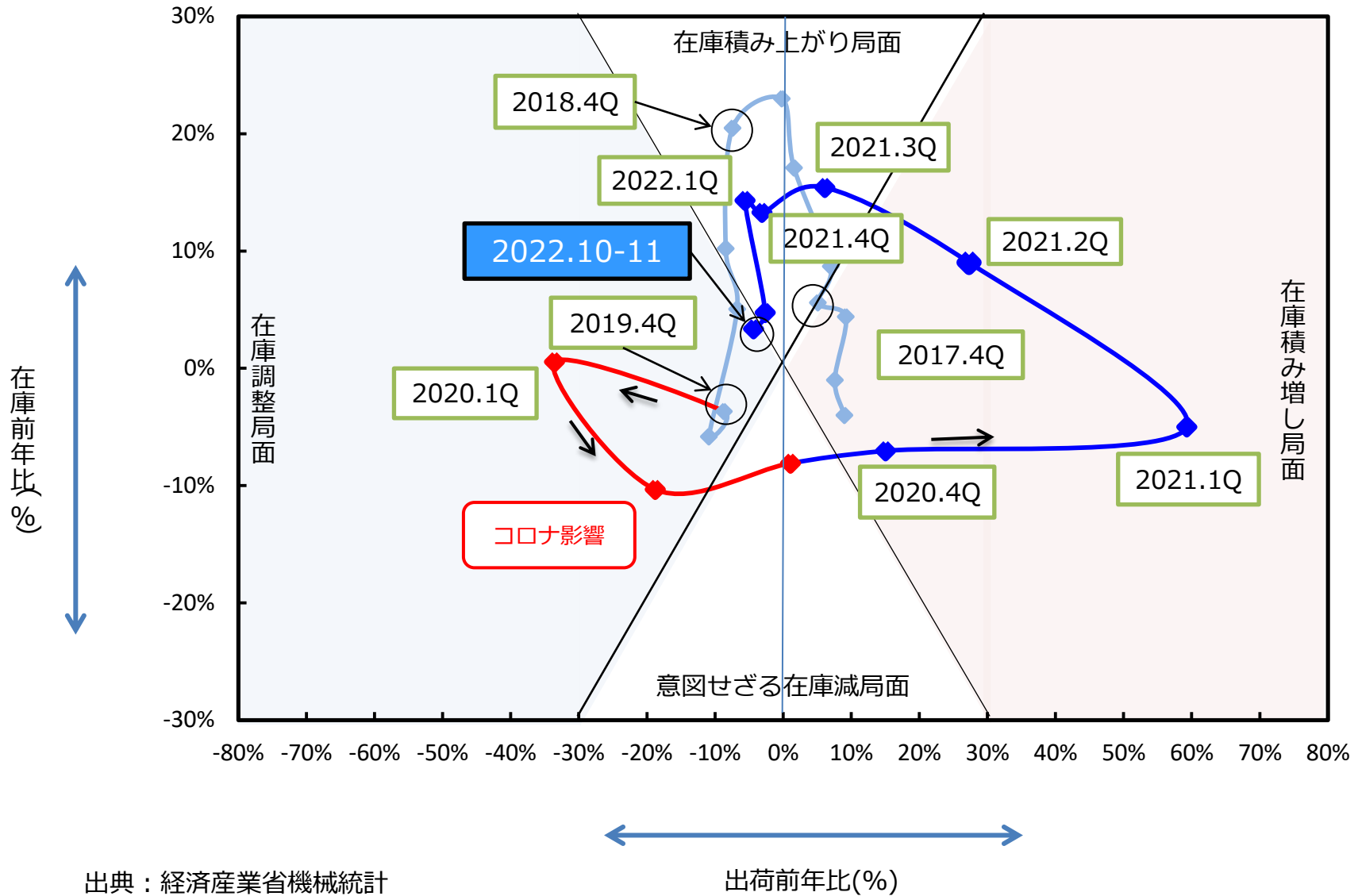
(前年同月比増減率)



軸受鋼は、2020/5を底に新型コロナウイルス影響から回復
足元、自動車減産、在庫調整影響が現出
2022/11は前年同月比 - 16.0%

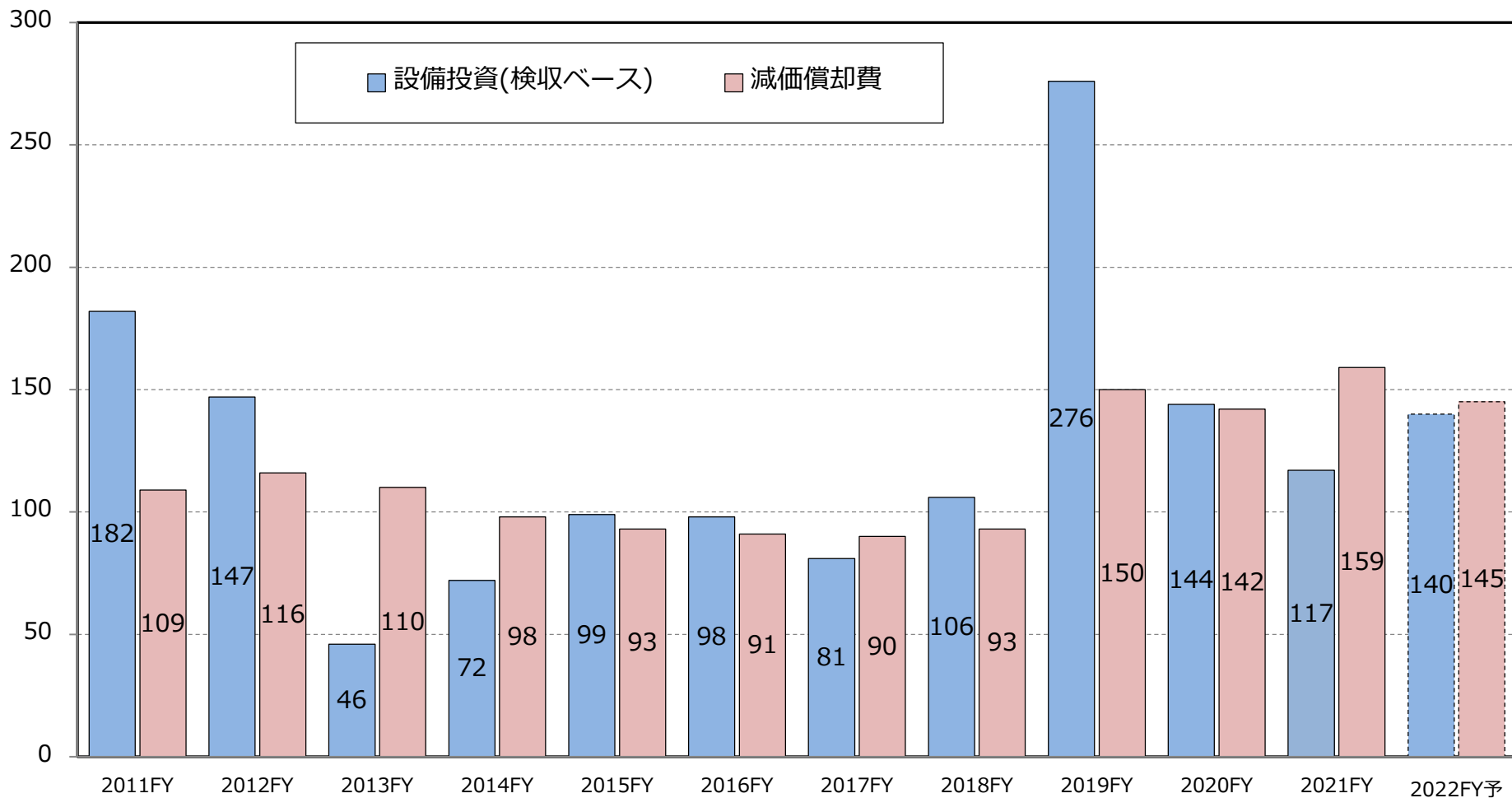
欧州デリバリー数量は2020/4に底打ち
2021/4は前年同期大幅減の反動で前年同月比 +101.0%
2022/10は前年同期比で - 11.3%

軸受在庫循環図

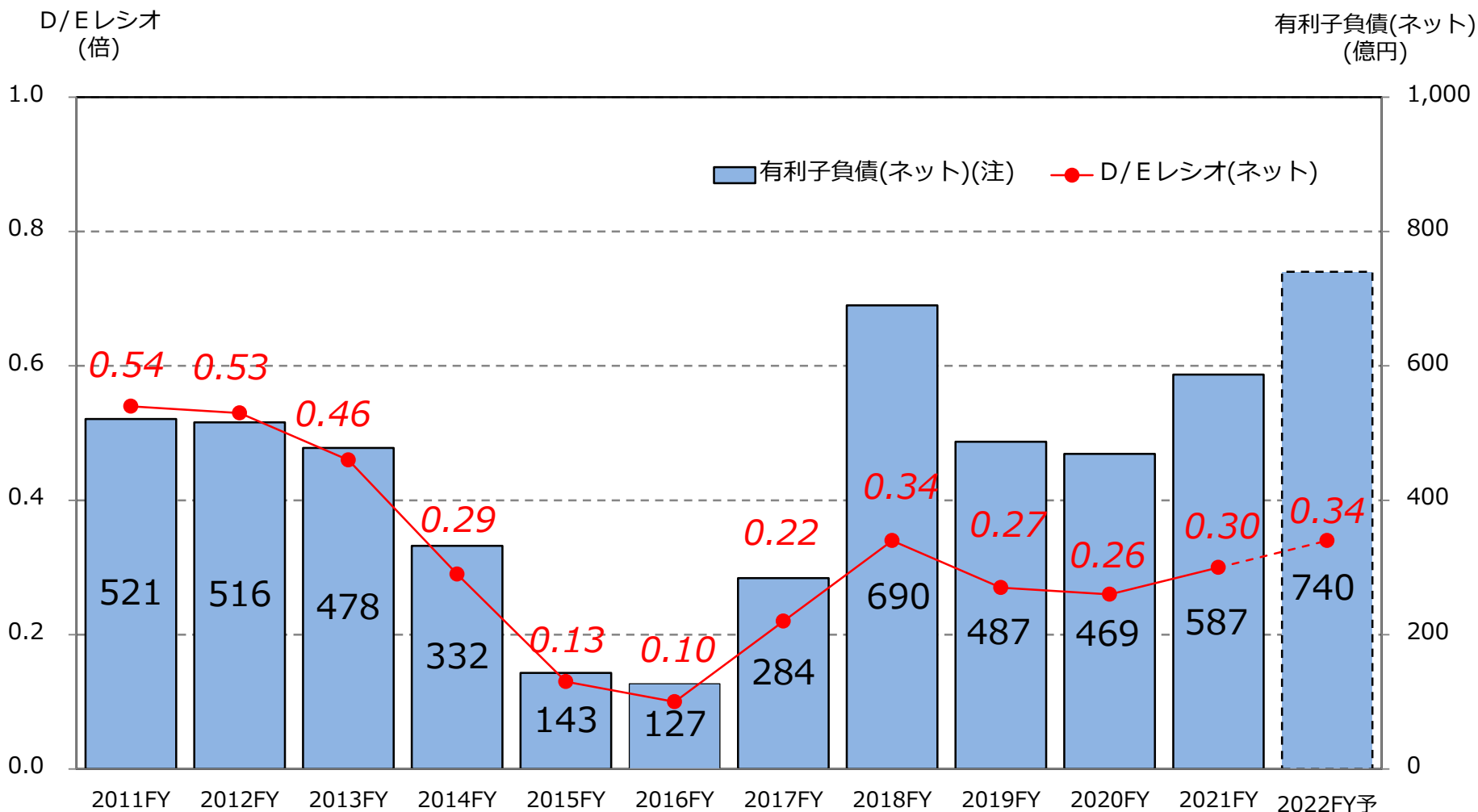


設備投資・減価償却費の推移

(億円)



D/Eの推移



(注)有利子負債(ネット)は、有利子負債残高から現預金および関係会社預け金残高を控除したものの

損益の詳細 (対2021FY4-12月期)

(単位：千t、億円、円/株、%)

	2022FY4-12月期 (A)	2021FY4-12月期 (B)	増減 (A) - (B)	増減率 (%)
売上数量	1,210	1,542	-331	-21.5
内、当社単独	681	763	-82	-10.7
内、Ovako	451	691	-240	-34.8
内、SSMI	78	88	-9	-10.8
売上高	2,944	2,693	+251	+9.3
内、当社単独	1,462	1,231	+231	+18.8
内、Ovako	1,267	1,293	-26	-2.0
内、SSMI	158	123	+35	+28.2
営業利益	204	144	+60	+41.8
内、当社単独	79	69	+10	+14.7
内、Ovako	139	89	+50	+55.8
内、SSMI	▲1	6	-6	-
内、のれん償却費	▲22	▲27	+5	-
経常利益	207	145	+62	+42.3
内、当社単独	95	75	+20	+26.4
内、Ovako	139	86	+53	+61.2
内、SSMI	▲4	3	-7	-
内、のれん償却費	▲22	▲27	+5	-
税後利益(注3)	148	102	+46	+45.3
1株当たり税後利益	270.9	186.4	+84.5	+45.3
のれん償却費を除く営業利益	226	171	+55	+32.2
のれん償却費を除く経常利益	229	172	+56	+32.7
のれん償却費を除く税後利益	169	129	+41	+31.8
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	310.9	235.8	+75.1	+31.8

(注1) Ovakoおよびのれん償却費：2022FY4-12月期は2022年4月～2022年12月の9カ月の数値、2021FY4-12月期は2021年1月～2021年12月の12カ月の数値

(注2) SSMI：1月～9月の数値 (注3) 親会社株主に帰属する当期純利益

損益の詳細 (業績予想2023/2/1公表) 対前回予想

(単位：千t、億円、円/株)

	22FY上期 実績(A)	22FY下期 予想(B)	2022FY予想 (C)=(A)+(B)	22FY下期 前回予想	2022FY 前回予想(D)	増減 (C)-(D)
売上数量	812	773	1,585	787	1,599	-14
内、当社単独	458	437	894	423	881	+13
内、Ovako	303	283	586	300	603	-17
内、SSMI	51	54	105	64	115	-10
売上高	1,954	1,916	3,870	1,896	3,850	+20
内、当社単独	965	965	1,930	925	1,890	+40
内、Ovako	857	773	1,630	773	1,630	-
内、SSMI	99	117	216	143	242	-26
営業利益	132	88	220	64	196	+24
内、当社単独	53	37	90	35	88	+2
内、Ovako	88	53	141	33	121	+20
内、SSMI	▲1	2	2	4	4	-2
内、のれん償却費	▲14	▲15	▲29	▲14	▲29	-
経常利益	137	83	220	63	200	+20
内、当社単独	70	35	105	35	105	-
内、Ovako	89	51	140	31	120	+20
内、SSMI	▲2	0	▲2	2	0	-2
内、のれん償却費	▲14	▲15	▲29	▲14	▲29	-
税後利益(注2)	99	61	160	47	146	+14
1株当たり税後利益	181.2		293.7		268.0	+25.7
のれん償却費を除く営業利益	146	103	249	78	225	+24
のれん償却費を除く経常利益	152	98	249	77	229	+20
のれん償却費を除く税後利益	113	76	189	62	175	+14
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	207.5		346.9		321.2	+25.7

(注1) SSMI：1月～12月の数値

(注2) 親会社株主に帰属する当期純利益

損益の詳細 (業績予想2023/2/1公表) 対2021FY

(単位：千t、億円、円/株)

	22FY上期 実績(A)	22FY下期 予想(B)	2022FY予想 (C)=(A)+(B)	2021FY (D)	増減 (C)-(D)
売上数量	812	773	1,585	1,995	-410
内、当社単独	458	437	894	1,002	-108
内、Ovako	303	283	586	873	-287
内、SSMI	51	54	105	119	-14
売上高	1,954	1,916	3,870	3,633	+237
内、当社単独	965	965	1,930	1,688	+242
内、Ovako	857	773	1,630	1,709	-79
内、SSMI	99	117	216	173	+43
営業利益	132	88	220	214	+6
内、当社単独	53	37	90	92	-2
内、Ovako	88	53	141	138	+3
内、SSMI	▲1	2	2	7	-5
内、のれん償却費	▲14	▲15	▲29	▲34	+5
経常利益	137	83	220	217	+3
内、当社単独	70	35	105	99	+6
内、Ovako	89	51	140	134	+6
内、SSMI	▲2	0	▲2	4	-6
内、のれん償却費	▲14	▲15	▲29	▲34	+5
税後利益(注3)	99	61	160	153	+7
1株当たり税後利益	181.2		293.7	280.2	+13.5
のれん償却費を除く営業利益	146	103	249	248	+1
のれん償却費を除く経常利益	152	98	249	250	-1
のれん償却費を除く税後利益	113	76	189	186	+3
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	207.5		346.9	342.1	+4.7

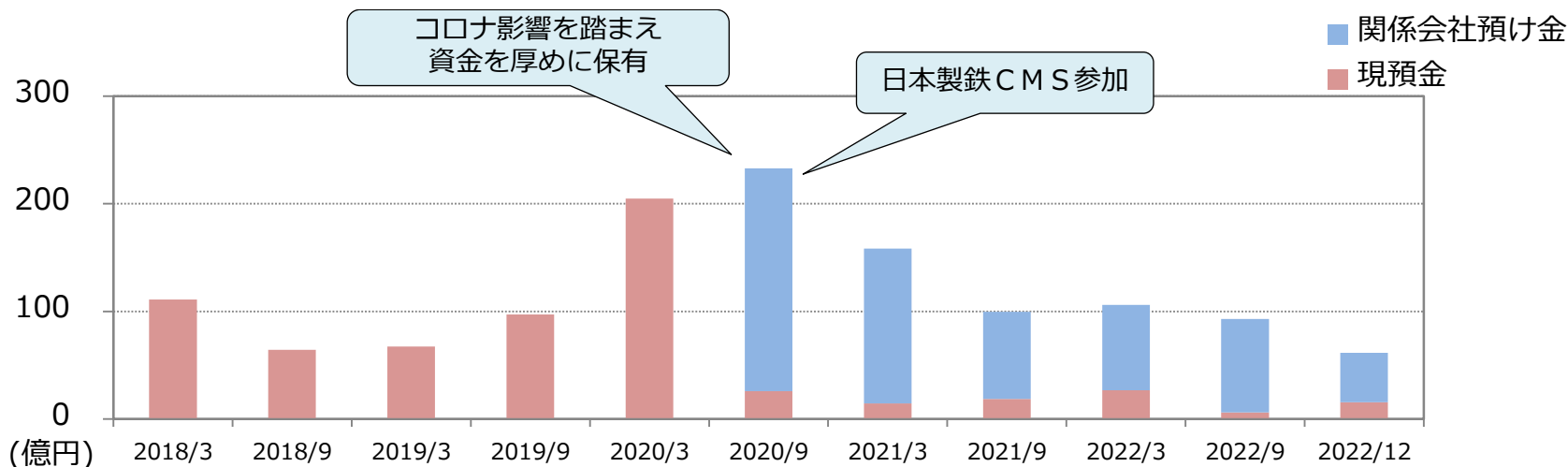
(注1) Ovakoおよびのれん償却費：2022FY予想は2022年4月～2023年3月の12カ月の数値、2021FYは2021年1月～2022年3月の15カ月の数値

(注2) SSMI：1月～12月の数値 (注3) 親会社株主に帰属する当期純利益

関係会社預け金について

- 2020年6月より、日本製鉄の連結キャッシュマネジメントシステムに参加。
- 当社の日々の残高を日本製鉄に預けるとともに、当社として資金所要があればいつでも引き出し可能。
- 万が一当社に資金ショートが発生した場合には、自動的に緊急融資がされる仕組み（資金のセーフティーネットとして機能）。
- 従来の現預金の保有では得られなかった利息を受領できる。
- 会計処理上は、預け金という形になっているが、必要に応じて当社の運転資金となるものであるため、**従来の現預金という性質には変わらない。**

関係会社預け金を含む現預金等の推移（単独）



未来への信頼を担う

当社の掲げる「信頼の経営」は地球環境の未来を担う。その思いを大切に、山陽特殊製鋼はこれからも躍進を続けます。



SANYO SPECIAL STEEL - the Confident Choice

(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。



「さんとくん」
(当社キャラクター)